

子  
婦  
人



第七卷

第五號

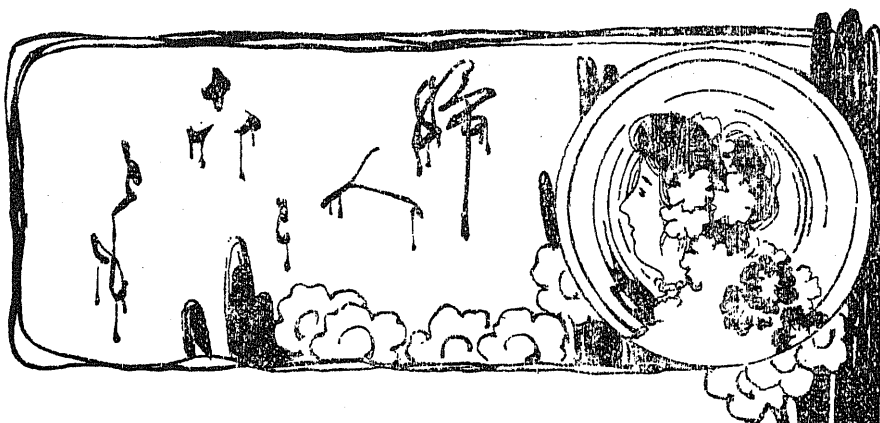
香





(畫名西泰)

ふてのだす



いぬる兒

かれるん侯作 孤蓬生 譯

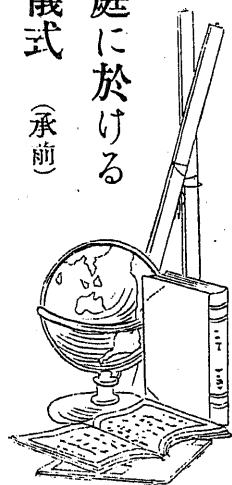
うまし子や  
汝が口を  
いないわよ  
この母の  
いとほしの  
われに來ぬ  
われはたゞ  
汝をたゞ  
手はたれて  
眼をもちて  
この顔に  
人いはむ  
さめよ子よ  
さめよ、さめて  
た、しばし  
たとへ汝が  
あなうれし  
のどかなる  
されどあはれ  
子のすがた

汝か父君に  
今しあてたる  
あはれ幼子  
胸にしひたと  
幼なき友よ  
うまき「眼睡」は  
汝をみまもり  
ひとりまもるぞ  
小さき額に  
はしき子はぬる  
林檎のごとき  
「死」の冷た手に  
われ驚きに  
うとまし  
目のみひかりに  
みにかふるとも  
眠れるなりき  
夢よ來りて  
如何に泣くも  
君はし我と

さもよく似てし。  
胸にいをねよ。  
ねむけのまぶた。  
静かにつけて。  
汝がやさし眼に。  
そと音つるゝ。  
かばひ育む。  
我はしれうき。  
「眼睡」はやどる。  
悪夢のみで。  
くれないなくば。  
いぬるにもやと。  
慄へわなく。  
思うち振れてよ。  
眼をひらきてよ。  
胸しづめてより。  
我は内つく。  
めるまをすかせ。  
眼さめほとえず。  
見んときなしや。

# 家庭に於ける

## 諸儀式 (承前)



### 後閑菊野

このたびの婦人と子とも發行の時は丁度五月五日  
でございませうからそれに因んで發行をした此の日  
の祝式を述べて見ませう

五月五日は五節句の一つであります五節句とは舊  
曆正月七日、三月三日、五月五日、七月七日、九  
月九日といふのでございませう維新前には是等の日  
を祝いと定め諸大名は何れも幕府に登城して祝賀  
を述べ各家に於ても分限に應じたる祝式を行ひま  
して互に祝意を表したものでございませう今の御代  
になりましてからは是等の祝日を廢せられました  
ゆゑに公の誠と申してはございませんけれども

地方ではまだ之を行つて居る所も少くないといふ

こととでございませう元來是等の日を祝日と定めたといふ

ことにつかしましては其の起原や理由が明らか

でございませんから公の祝日として行ふには及

ばぬこととでございませうけれども一家團樂の快樂を

計り親戚知友の親睦を扶けるといふ上から申せば

四季折々の好時節と選り相當の題目のもとに然る

べき方法を定めて之を行ふもまた利益のないこと

ではございませう去る三月二日のこととでござい

ました懇意の人から學校のお歸りにお立ち寄り下

さいといふこととでございませうから子供を一人つ

れまして参りましたところが座敷にはいりませうと

床の間には紙びなの掛物が掛けてありまして花は

桃が見事に活けてございませう先づこの時節にか

なつた裝飾によつて主人の心まで優しくおもはれ

ましたがそれから櫻餅豆いりなどのお菓子が出て

白酒にお重詰物のお皿と蛤のお吸物とを添へて

お膳が出ましていろ／＼の物語りにおもはず時を



うつしましたかそれがために心やからだの勞れも  
 忘れましてどれほど慰められたでございませう子  
 供はまた次の間の雛段の處で其の家の子供と樂し  
 く遊びまして大層な元氣で歸りましたかやうの事  
 は素より是非せねはならぬといふ事ではございま  
 せんがたしかに家庭の快樂を助け子供の教育の一  
 端ともなりまた交際にも益のあること、おもはれ  
 ますそれはさておき今次に昔行はれました五月  
 五日の祝式を述べて御参考に供へませう

は次の文によつて知ることができませう  
 公事根源に曰く天皇武徳殿に出御なりて宴會を  
 行はれ群臣に酒を賜ふなり内辨なども四節に同  
 じ人々皆菖蒲のかつらをかき日蔭のかつらの如  
 し典藥寮、菖蒲の案を奉る群臣に藥玉をたま  
 ふ五色の絲をもてひぢにかくれれば惡鬼を掃ふと  
 申す本文侍るにやその後騎射の事あり大將射  
 手の奏をとる左右近衛馬に乗りて弓を射るこれ

をまゆみともいへり推古天皇の御宇よりはじま  
 ると  
 後世に至りても一般に軒に菖蒲と蓬とを葺き男子  
 のある家では幟をたて武器を飾り粽或は柏餅な  
 どを作つて此の日を祝ふを例として居りましてそ  
 れについて安齋雜考には次の事が載せてございま  
 す

五月五日に男子旗を立て冑形などを飾り木太刀  
 などもてあそぶ事上古にはなし中古以來の風俗  
 なり増鏡に五月五日には所々より御かぶとの花  
 くす玉などいろ／＼おほくまぬれりとありこれ  
 は八十八代後深草院實治二年の事なり此の頃す  
 でに紙かぶとを作り花を以てかざることのあり  
 しか或説に九十年代後宇多院弘安四年に蒙古とい  
 ふ異國より我が國を奪ひ取るべきために九萬艘  
 の兵船を浮べて博多のうらへよせ来る其のとき  
 諸社諸寺にて御祈願ありし中に山城國藤の森の  
 社にも祈り給ひしに八月一日大風起りてかの兵

船くつがへりえびすども 悉く海に沈み死して  
 たゞ三人いきて本國に遁げ歸りしかの日藤の森  
 の社の内より白羽の矢飛び行さし事もありけれ  
 ば此の神のえびすをば亡ぼし給ひけるにこそと  
 いひあへりそれよりこのかたかの神の祭の日五  
 月五日神幸の時は神人等甲冑を着、馬にのり旗  
 を立てなどし兒童は太刀をはきなどし軍のよそ  
 ほひをなし、が弘まりて都近くの國々より遠き  
 國々にまで及びて五月五日にはかの祭を學び  
 て太平を祝ふ事とはなりぬといひ傳へたり此の  
 事吉田二位兼俱の記されし藤の森の社縁起にも  
 見えたり云々

又暮朝年中行事歌合に

端午に軒毎に菖蒲蓬をさしはさむことは都鄙の  
 へだてなし出仕の人々皆長袴さてことぶきを述  
 ぶ此の日より麻の御ぞを奉れり若君誕生あれ  
 ば兩御所をはじめ御方々より菖蒲、冑を參らせ  
 られ國主外様譜代の大名よりもこれを献ずその

もの、所なる大路に假屋を建て壇を設けてこれ  
 を据う其の數幾百千なるを知らず白地に御紋  
 の旗二十流れ紅白の吹ながしなど風にひるがへ  
 りかたはらに鎧 薙刀、弓、やなぐひの兵仗い  
 かめしく立てつらねたるけはひまことに武門の  
 有様なりけりと見ゆ

とございまして徳川幕府に於ての此の日の祝は右  
 のとはりてございまして普通の家でも男子が生れ  
 て初めて此の日を迎へました時は初幟と稱へ幟や  
 武者人形などを飾り親戚知己を招いて祝ひました  
 のでございまして親類知人からも幟武者人形などを  
 贈つて祝意を表し其の家では粽、或は柏餅などに  
 相當の品をもそへ之を贈つて謝意を表するを例と  
 して居りました

男の子のために五月五日を祝ふと同様に女の兒の  
 ためには三月三日を初めて迎へたとを初節句、或  
 は初雛と稱へ其の家で生兒のために一通り雛道具  
 を備へるは勿論親類などからも人形、或は調度など

相當の物をあくりますそして其の兒が成長して他に嫁ぐときには是等の品を携へ往くが例になつて居りまして今序に徳川家大奥の此の日の模様とめいゝの家で行ふ當日の大様とを記しそへて置させう

徳川家大奥にて行ふ雛祭は三月朔日より四日までありまして二箇所に之を飾られますそれで御臺所休息の間に飾る方を内所雛と申しました雛段の數は何れも十二段で之に夫婦人形及び種々の人形調度などを位置よく排べ食膳並に澤山の供物をそなへます雛人形の衣服は年々新調せられるのでございまして其の美はしいことは何ともいはれぬほどであつたさうでございまして當日御臺所をはじめ女中の服装は白紋縮緬或は白綾子などの間着に總縫入の襦を着、髪は垂髪又は片はづしであつたさうでございまして三日には三家三卿などから貝類、菱餅、白酒、菓子などを献上する例でございまして當日は大奥の女中に白酒、料理などを賜

ひ夜に入つては音楽の催しがありました諸大名の奥向で行はれましたことも大抵之と同じでござい

ます  
さてめいゝの家では當日七段五段或は三段位の段を設けこれに緋毛氈を敷きつめ上段には男女の雛人形一對或は數對を飾り次の段以下には五人雛其の他種々の人形を飾り又諸種の調度をあき桃、櫻、椿の花などをいかに華やかにさして段の所々に飾るが普通でございまして又これに白酒、菱餅(紅白緑の三色で縁は蓬を入れて搗いたものであります)豆煎り、貝類、野老、鮎煎、及び美事な重詰をこしらへて供へます且つ小さい膳具を本膳二の膳など、式の如く調じて三日の間供へるのでございまして夜は燭臺數箇を並べこれに花蠟燭をあたりまだゆきまでに點じて賑はしく遊ぶこと何れの家でもかかはることはございませぬ此の日女の兒は特に衣服を着かざり互に近い家々を訪問して雛を賞し白酒菓子などを饗せられるのを樂しみとして居



りました  
 初雛の時は特に賑はしく祝ふのでありまして雛人形などを祝つてくれた家々の人を招いて饗應しそのうへ菱餅に相當の物品を稱へてそれらの家に贈ることは五月五月初織の時とふなしでございす

- 結婚するには如何なる婦人を望むかと云ふ間に對して男子の希望する所を統計したものが米國の某雜誌に出て居つたと云ふことだ。今之を摘記して見ると
- 一、家政を重んずる婦人を望む者 七四
  - 二、愛情を希望する者 四五
  - 三、長き動作の婦人を望む者 三七
  - 四、同情ある婦人を望む者 二七
  - 五、常識を有する婦人を望む者 二七
  - 六、基督信者の婦人を望む者 二七
  - 七、才智ある婦人を望む者 二四
  - 八、服装の趣味ある婦人を望む者 二四
  - 九、美人を望む者 一二
  - 十、美服を有する婦人を望む者 一一
  - 十一、滑稽感を有する婦人を望む者 一一
  - 十二、財産、地位、門閥等を望む者 〇二

▲米國婦人と離婚

米國に行つて驚いたのは離婚の多いことだ(第一)好いた同士で夫婦になつたらイヤになれば親兄弟の干渉なしに自由に離婚ができる(第二)女子の教育や理想が或意味に於て男子よりも高い、男子は十八九になれば生活の爲に退學して職業につく、高等學校などでは時としては男子の數は女生の五分の一か十分の一しかない(第三)米國では婦人の職業の範圍が廣く、追々男子を追捲くるほどであるから、自分よりも理想も低く収入も裕かでないものを旦那々と拜んでゐる必要がない(第四)は米國の法律から起る、米國の何れの州にもアリモネーといつて女子は法律上の權利として夫の收入の一部、大概十分の一を要求するの權利がある、他へ再嫁せず獨身でゐる限りイツ迄も貰へる、それで少し腹黒い女であるところを目當に夫婦になつて直ぐ逃げ出す、元來此法律は離婚された女子を保護する精神から出たのだが今は女子亂行の原因となることが多い、米國離婚裁判の記録などを見ると日本とは丁度反對で原告の十中八九までは女だ、つまり男が女に捨てられるのだ、また日本とは丁度反對に私通よりも姦通が多い、それは娘時代が悪い評判を立て、は嫁入が出来ぬが一度結婚した上はもう安心だ、離婚された所が例のアリモネーがある(趣味)米國婦人の内幕

# 小兒の發熱は如何に

## 處置す可きか

瀨川昌著

私の専門は小兒科であるから話と云へば矢張り小兒の病氣に就てゐるが、一般の育兒法と云ふ様なものは從來種々の新聞や雜誌にも出て居るし又自分の背で話したものを本誌上にも永く載せた事もあるから今日は一般健康兒の事でなく病兒の取り扱ひの事で少し述べて見ませう。

先づ健康と云ひ不健康と云ふのは何う云ふことかと云ふに此區別は一寸わからぬものです、一体に絶體的の健康と云ふものは殆んどない所のもので何んな健康強壯のものでも之を細かに調査すると云ふと何處かに必ず缺點を有するものです。即ち絶体に無病息災な人と云ふものは先づないと云ふてよい位のものです。故に健康体と病体との區別

は一寸極め兼ねますが、まわ大体に就て云へば生活活動に不都合がなければ健康と云ふて差支ないのであります。之と同様で小兒の弱い弱くないと云ふことも程度がつき兼ねるものです。夫れに又小兒と大人とは元來、身体の組織及生理、状態が違ふので、其病氣の様子も色々違つて來ます。之が小兒科専門の起る所ですが大に注意を要する次第です。

そこで本論に入つて病氣の事を話しますが、病氣には昔から四百四病あると云ふ位に多くありますが、今日では段々と殖えて中々四百四病と云ふはありません。それで是等の病氣を直るか直らぬかと云ふことに因つて分けて見ますと大凡を四つになります。第一は醫療を加へずして直るものです、凡そ病氣と云ふものは何の病氣でも決して醫者が全然直すのではなくて病は獨りで直つて來るものです。殊に藥など云ふものは元來が單に病患の叩進を妨げて体を保護するに過ぎないもので

あります、其中でも此第一種に屬する病には藥は何の役にも立たないもので、云はゞ無用の長物です。假令飲んだ處で早く直るでもなし、遅く掛るでもありません。こんなものに藥代を拂つたり診察料を取られるは馬鹿げた事です。尤も斯ふ云ふ馬鹿げた金の遣ひ方をする人があるので、醫者も飯が食へるので若し世人が皆注して此種の病氣は一切醫者の所へ持つて行かない、醫者の世話には一切ならないなどになると、醫者も飯の食ひ上げと云ふ譯になります、そこは天が甘く配劑して是等のつまらない病氣にも金を投ずる人が續々絶ゆることのない様にしてあります、何う云ふのかと云ふと、素人には是は治療を加へなければならぬ病氣か、若しくは投藥の必要のない病氣か、分らないのです、是が別つたら最期醫者は飯の食上げです。

第二種は醫療を加ふる時は治癒の日數を早めることの出来るものです、そして放つて置く時は管に

全治の期を遅くするばかりでなく時には不治のものに導かぬとも限らぬものです、併し多くは自然に平癒するものです。

第三種は治療を要するもので若し醫藥の手を藉りなかつたなら必ず不治の状態に陥らしむるもので治療すれば全治することの出来るものです。

第四種は到底不治の病で現今の醫學の程度では治療の方法が判らぬものです。それで右の第一種に屬するものは輕き食傷、輕き風邪などで是等は別

段醫術を要さぬもので、自然に治癒するものです。多くの病の中には此程度に屬するものが頗る多くて私が常に診察して居る女子高等師範の寄宿生な

どの平素の病氣は大抵此種のもので別段投藥の必要はないものです。併し診察した丈で藥を遣らぬと如何にも不親切の様ですから投藥はしますが、

實は何等の効もない位のもので、それだから私は自分の家族などには滅多に投藥したことがありません。次に第二種第三種と云ふのは普通の病氣

は、悉く入るので肺病の初期なども此中です、即ち肺病なども凡て初期ならば治るものですが治療を加へないと逆も治らぬのみか遂には死を招く様になるものです、次に第四種に屬すると云ふのは諸種の岸瘰肺結核の末期、などの類です。斯の如く病氣には治るものと治らぬものとあり治るもの、中でも醫藥を要さぬものと要するものがあります。併し此治療を要さぬものでも攝生と云ふことは怠ることは出来ませぬ、病氣は假令治療を要さぬ程軽いものでも、若し攝生に欠ける處があれば病勢を導いて遂に大患にしてしまふことがあるものです。例へば食傷の氣味の處へ不消化物を食べたり感冒の氣味の所を寒風に吹かれたりしたらば其結果は必ず悪いに極まつて居ます。即ち攝生は病氣には殊更大切なものであり特に小兒などには其取扱方が特別ですから大に研究しなければなりません。

そこで病氣の時の取り扱ひ方は何うしたらよいか

と云ふに先づ最も多く困るのは小兒發熱の場合です。一、人体の熱度は三十七度前後で小兒は大人に比べると一般に少し高いものです、それが病氣となると著るしく高くなつたり底くなつたりします。平日の温度よりも二三部位高かつたり時には六七部位低かつたりする位なら別段病氣と云ふ程ではないのですが是以上も著るしく變化が來たら病體と思はなければなりません。尤も熱は之を計る位置が異なるに因つて違ひますが以上は専ら腋下で計るのを云ふたのです。

小兒の發熱する原因は不明なるものが屢あります。そして小兒は熱に感じ易いもので時には検査温器に顯れない程の微熱にも感じて居ることがあります。俗間には之等を智慧熱とか齒熱とか云ふて居ますが確かでありませぬ。齒熱なども或ものは信じて居ますが私は信じませぬ。齒の生へる前と中と後とに區別して詳細に調査して見ると何うも確かな事實を見出すことが出来ませぬ。故に是等の時の

發熱は其原因が不明なるものが度々あります。併し此熱量は治療の上には大切なものですから能く計つて於て醫士に報じなければなりません。其計り方は腋下でするが普通ですが、計り悪ければ肛門でも宜しい此方は時間が少なくて計れます。獨乙などでは専ら肛門で計ります。斯様にして熱の高いことを見出しましたらば先づ子供を涼しい處へ寝かして頭を冷やすことです。之は腦膜炎を起すのを豫防する計りでなく、熱の下降を來すことがあります。若し頭を冷やすことを小兒が嫌つて仕方のない時は枕に水と氷を入れて冷が宜しい。時には熱があつて四肢の却つて冷ゆることがありません。此時には適宜温めて遣るが宜しい。頭を冷して居る中に漸次熱が下降したらば止めて宜しい頬のあたりが冷えて來た時は止めてよい時です。

又發熱の原因が腸にあることがあります、斯るときは多く便秘などして居るものですが若し便秘し

十  
て居つたらば灌腸して遣るが宜しい其方法も器も簡單ですから家庭には必要のものです。近頃グリスリン座薬と云ふものがありますが之も可なりに効きますが灌腸器程には効がありません。小兒發熱の場合は大略右の様に置いて置いてそれから後の手當は醫士を俟つのが得策です。其以外安りにいぢると飛んでもないことにすることがありますから先づ手を付けないのが安全です。

▲英國と女教師の増加 米國にては教師の代名詞として彼女を用ふる程にて大抵の小學教師は多く婦人なるが英國にても近來女教師の數著しく増加し千八百五十年には小學教師四名の三名は男子なりしもの今は反對に四名の中三名は女子の割合となり女教師の數は總て二万人以上となりたる由なり

▲歐洲女子の理想生活 歐洲諸國の女子にして廿五歳以下の年齢に於て結婚するものは近來極めて多く自身は父母の家に住みて婚約を爲したる人より絶えず種々の遊興に金錢を費さしむるは最と愉快 理想生活なりと稱し居ると云ふ斯くも一身の安逸のみを圖るに至りては歐洲人の前途も憐れなりと謂ふべし



## 歐米在留中の所感

齋藤清太郎

私が獨のベルリンに滞在中でした、宿所の近邊にピアガーデンと云ふ公園がありましたので食後には何時も散歩することに極めて居りました此公園は日比谷公園の様に全然人工に因つて出来たものではなくて、本來が大きな森林であつたのを公園にして其森の中へ縦横に道を付けた丈ですから散歩には此上もない持つて来いと云ふ恰好の所でした。處が此公園には小兒が澤山方々から集つて参ります。何故澤山集つて来るかと云ふと此處には至極面白い小兒遊び場が出来て居るのです。そ

れは何かと云ふに、廣さは百坪ばかりの土掘り場であります。全体を少し掘り下げて中には砂と土と交ざつた掘り易い土を入れて小兒が勝手次第に掘ぢくり返すことの出来る様にしてあります、そして幾分の濕り氣が與へてある様であります、そして又其周圍には小兒を連れて來た保姆や子守の休む爲めに大きなベンチが幾つも並べてありますので小兒の遊ぶのを見ながら是等の人は編物や裁縫をして居ります。

是は誠によい思ひ付きであると思ひました。後に佛國のルクサレブルグの公園に往つた時などには是等の設備を何處にも見出すことが出来ないものですから小兒は何をして居るかと思ふと皆道上の砂を骨を折つてかき集めてそして砂遊びをして居ましたので彼に比べて可哀相に思ひました。

それから此ピアガーデン公園の傍に一つの動物園があります。私は此處へも屢々参りました。此動物園は亦小兒の爲めに特別割引をして、月極め



などに仕様のものなら殊に安い入場料で見せますので澤山小兒が来て居ます。そして此中にも例の土掘り場があります。此方は前のよりは一層よいので廣さは矢張り百坪ばかりの處を此處は二つに仕切つて一方は小さき子供の土掘り場一方は稍大きな五つ六つから十位迄の小供の土掘り場とし三方は壁で屋根があつて雨が降つても遊べる様になつて居ます。其上の三方の壁には畫がかいてありました。何んな畫かを見るとグリムお伽話の中から色々面白いのを書きぬいたのであります。是などは最もよい思ひ付きではあるまいかと思ひます。小兒は遊びの間に自然に畫と書きを求めて面白き有益な話を聞きて楽しむことが出来るし子守の若きものなども時には利益することがあるに違ひないし。出来るなら我國にも欲しいものであります。

次に感！たのは動物の飼方です、例へば駝鳥を飼つてゐるのに其小屋はと云ふと其駝鳥の産地たる

十二

亞弗利加エジプトの古代の建築風を表はし壁畫もあると云ふ風にし向の奥の方には油畫を掛けメモンの石像などがあつて全体パノラマ仕掛となつて居ると云ふ具合で如何にも教育的であると思ひました。併し果して教育上に應用す可きものなるか否かは判りませんが兎に角感じたからお話致します。

それから佛國滞在中に感じたのは到る所何處の公園に行つても、人形芝居が頗る盛んなのには驚く位です人形芝居と云ふと大伽婆ですが一寸一坪ばかりの小屋掛の中で小さな人形を色々と躍りして十サンチユーム(我一錢位)で見せて居る。小供はこれを見てキャツ／＼と云つて悦んで居るのです。それで私が感じましたのは此人形芝居の脚本にお伽話を使つたら至極妙なものではなかるうかと思つたのです。

まのお話するものはそんなものです。



# 幼稚園に於ける

## 觀察的誘導

中村 五六

兒童が漸次發達して好奇心求知心と云ふ様な進取的活動が表はれて來る時期に達すると新しいおもちゃだの又は珍らしいものなどが大層歡迎される。従つて事物の觀察と云ふ方面には随分働くものである。玉コロがしを悦んだり、ドッコイ／＼と云ふものを悦んだりするのも此時代である。繪畫を見るを悦び讀本を見るを悦むのも是時である。いかけ屋が往來で鍋をいかけて居れば之を悦

んで見物するし馬が通ればお馬／＼と騒ぐ其他犬を觀察し猫に注意し蟹を捕へ龜と遊ぶ、凡ての自然物に親しんで之を知り之を覺えるのもつまり彼自身には珍らしく感ぜられ面白く見られる爲めに之に注意し之を觀察するからである。玩具などの中には此種の興味を利用したものが近來頗る多く出來た様である、彼の自動玩具と云つてセンマイや其他の仕掛で自動する様に出來て居るのは大底此種の興味を刺戟するものである。双六、雷ふとしなども此類である。そこで幼兒は是等の觀察的の遊嬉に因つて得る所のものを材料として種々の心象が形成され知力が發達して行くのであるから教育上から見れば此種の遊嬉は適當な廣さと適當の深さとを有する様に導かなければならないものである。然し從來の幼稚園などでは是に餘り重きを置いて居ないから子供は年中峽き幼稚園の境界内に許り閉ぢ込められて廣き世間の現象に接することが出來ないで經驗の範圍が狭く、従つて家庭

に自由に育つて所々を歩き回らつて種々雑多の經驗を得て居るものに較べると其廣さに於て劣ると云はれるのは無理もないことである。

そこで今後の組織ある幼児教育には是非とも兒童をして如何なる事をどの位觀察せしむ可きかと云ふことを具案的に定めなければならぬと思ふ先づ其材料の方から考へて見るに物としては第一に自然物に就て適當な經驗を與へなければならぬ之に就ては近來所々の幼稚園で花壇を設けたり家畜を飼養したりして居るのは頗る時宜に適したものであるが動物などの中には逆も園内に飼養の出來ないものがある。假令ば牛、馬、野鳥、狐、狸の様なものである。是等は宜しく動物園の様な處に幼兒を連れ出して時々は見せることが必要であらう。又近頃の様な好氣節には野遊びで植物の觀察は尤も宜しい事だらうと思ふ。其他鑛物類にして水、土、石、金屬の重なものなどは夫れ々觀察させて置く必要がある。併し幸に自然物に對

しては近來大に重きを置く様になつたので何處の幼稚園でも幾分が注意して居る様である。

次には人工物の觀察であるが、其最も手近かで自然に行はれるのは身邊の被服や家庭の什器である是等は幼稚園などで特別に觀察せしむる必要もないが身邊や家庭を離れた屋外の物になると往々無智に過ぎなければならぬから此點が幼稚園の注意すべき所である。例を上げて見ると川、山、海、坂等の地理上の名詞より電車、瀛車、家屋、寺院、學校、病院等の名詞の中には幼兒にも相當に知らせて置く必要のものが随分ある。是等は適當に見せしむるより外に知らせる方法がないのであるから時々をそこら引き張り回はして觀察せしむ可きである。一体幼稚園などに來ない所の子供は親兄弟も其氣になつて注意すれば所々供々に連れ歩く事もあるから自然覺える譯であるが、一度幼稚園に子供を托すと云ふと最早父兄は教育的考慮を費す必要がない様に考へて頓と子供に注意し

ない人が多くの父兄中には無いとも限らぬから幼稚園では夫等父兄を俟たないで出来得る限り誘導の方法を講じなければならぬ。従つて時々は園外に連れ出して所々を歩るき回る必要がある。次には人種の區別である、家庭に於て父、母、兄弟、叔、伯母等の區別は出来るが尙此外に社會上に種々の區別あることを知らせなければならぬ又知つて居ることが幼児に取つても頗る愉快なことなのである。即ち兵隊さん、書生さん、お巡はりさん、等職業的區別は其重なるものである。所で此等の經驗は如何にして有せしめらるゝかと云ふに是も幼児を幼稚園内 推し込めて置いたのでは逆も出来る譯ではない。仍つて時々は屋外に連れ出す必要がある。以上三方面に注意したらば物と云ふ事には可なり充分な經驗を有し併せて嬉嬉の材料は得られる譯である。次に觀察せしむる必要であるのは、社會及自然界の種々の現象即ち「事」と名く可きものである。尙之を分類して見ると左

の通りである。

社會上の現象

- 一 職業の内容
- 二 社會上の出來事

自然現象

- 一 物理的現象
- 二 化學的現象

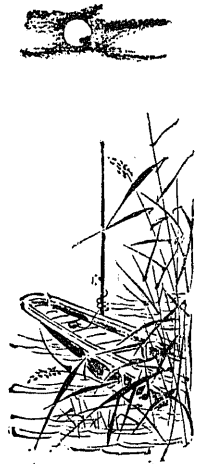
職業の内容と云ふのは兵隊さんは何をして居るか、大工さんは何んな仕事をして居るかと云ふことに就ての智識である。是が幼児には大なる興味と智識とを與ふるもので幼児の模倣遊戲の材料の大部分を供給するものである。従つて其教育的價値は大なるものであるが、此價値を充分收得せしめんには是又、幼児を時々連れ出して實際の場合を觀せしむる必要がある。次に社會上の出來事は如何と云ふには是は知らしめない方が都合のよい事もあり、時には却て他の害を起さぬとも限らないが併し矢張り普通の事は知らしむる方が得策である。神社佛閣の祭禮や縁日さては冠婚葬祭

式など夫々見させて有益でないことはない。是れに關して現在の幼児教育殊に幼稚園では頗る不親切であると思ふ。

次に自然現象と云ふのは地文上の現象や之に伴ふ動植物の上に表はるゝ現象などの事で多くは居ながらでも觀察できるものではあるが園外に觀察せしむ可きものも頗る多い。是も園外保育を要求する一理由である。

以上説明した通りで幼稚園では園外に幼児を連れ出して保育誘導を試みねばならぬ場合が頗る多いが今日之を實行して居る所が少ないのは何故だろうかと云ふには一に保育の手が少なくて幼児を管理することが困難だからであるに違ひない。然らば之を救ふの方法は如何に云ふに先づ全幼稚園の中で順番に一人宛線合せて園外保育の當番と云ふ様なものになり、そして幼児も其數を平常の一分の四分の一位に減じて交互代るゝに園外に引率したらよからうと思ふ。併し幼稚園の園外保育は

彼の小學校などの運動會や遠足旅行など、同一視してはならぬ。決して一時的にお祭り騒ぎなどを可きものではないので云はゞ幼稚園に於ける校外教授であるから折だに能くば絶えず時々勵行す可きものである。亦之を行ふには何も瀛車や馬車など驅りて數十丁の外に連れて行かなくともよいのである。況して辯當や晝食の用意などをしなければならぬ程の遠出をする必要はないのである。それから一つ之を行ふに都合のよい事は幼稚園に助手を少し餘計置くことである。助手の手が多ければ多い程保母は充分な活動することが出来る。従つて園外保育も充分に手が回る譯である。斯く云ふと或は其は經費に關係すると云ふかも知れないが是は經營次第で左のみ經費を増すものではないと思ふ。



# 幼稚園新入幼児の

## 取扱につきて

つる子

幼稚園保育につきては經驗至つて淺きつる子の事  
 で御座いますから新入幼児を取扱ふたのも昨年  
 が始めていとも委しい御話は出来ませんが折時  
 々新設幼稚園の保母かたさまに御質問をうけるを  
 が御座いますので新學期の始めに至り幾分の御參  
 考にもと新入兒取扱につきて左に一二心つきしを  
 を御話しいたします。

新入兒取扱ひ方の心得

のどけき父の光、暖き母の慈愛のもとに育ち兄  
 弟姉妹を友とし頼みの母を傳とし中には附添の子  
 守をたのみ只わがまゝに家庭に育つた子供達にと  
 りては入園は實に生活上の一大變動で御座います  
 何事にも急劇な變化は人の心身を害するもの殊に  
 か弱き幼児にとりては其の影響もまた大人に比し  
 て著しいとて御座いますから保母若し其取扱  
 法に注意しませんならば幼児等はあはるひは幼稚園  
 を不快の場所とし或は保母をこわきものと思ひあ  
 るひは幼児をして不平の念を抱かしめ心をつから  
 しまたは幼児の身体を疲らす等保育が役目の幼稚  
 園が却つて幼児をそこなふとゝなるので御座いま  
 すですから新入兒取扱には先づ第一に「だんく  
 に」といふこと「少しづつ」といふとが何よりの  
 必要で急劇は大の禁物に園時間の躑け方も附添を  
 離れしむるをも幼稚園になれしむるをも急によい  
 結果を見やうとわせらずだんくに少しづつ家庭  
 風より幼稚園風にならして行かねばなりません



一、在園時間

在園時間も幼稚園は大抵朝八時半にはじまりならば終りは一時半位が並で御座います。が新入兒を始めから此規定にあてしめるのは大の禁物の急劇に當りますのでよろしくない座つて居つた子供が腰かけにかけ勝手に遊んで居たものが保母の監督のものに共同で遊ばなければならぬといふわけであります。から新入園の當日の如きは幼兒等は在園一時間て歸宅せしむるも随分よい運動になつて夜分は早く寝についたといふ程です。から入園當日の如きは一時間位保育して歸宅させ翌日は一時間と二十分間第三日目からは毎日十分位在園時間を増して行き第五週目位から四時間第五週あたりから四時間半にうつすが尤も穏やかなやり方かと思はれます。小學校でも最下級新入當時一學期間は三時間位で歸すところもありますから、

一、辨當につきて

家庭にありて多くは不規律に間食した癖もあるべ

十八  
し左なくとも晝食前一席位は間食するが幼兒の常で御座います。から朝九時頃から始まりまして正午まで何もたべずにおくのは空腹を感ぜしむる事であります。から大抵十一時頃には食事させるのは宜しう御座いませう。こぼさぬやうにたべさせやうには随分保母の世話が入りまゝが何事も自治を貴ぶからといふて始めつからひとりごとと教へるのは可愛さうこれもあせらずだん／＼にひとりてやるやうに導く覺悟が入ります。

一、躰け方につきて

昔古人の教にも信ぜられざればいさめずといふとがあります。幼兒は訓令に先生を信用してかゝるものではあります。が入園當初まだ保母になつます。幼稚園になれざるうちから「これは斯くせずばならず」それはそうしちやいけぬ」やれ何やかやと躰けに口やかましくいたしますと子供は一圖に先生をこはさむのと思ひ親しみ近くの心をこしません。それでは保育の効果を十分つきこむわけに参り

ませんから初め三四ヶ月間は主として子供、親しむと幼児を自分になづけると小供をして幼稚園を面白がらせるを」等に意を用ゐる他兒の妨害にならず備附の物品等を毀損せぬ限りはなるべく自由に遊ばせ保母の幼兒の一人となつておもしろく遊ばせるやう氣をつけねばなりません、

四、体育を主にすること

上級の學校になるに従ひ智育を重んぜられ幼少な學校になるに従ひ体育が重んぜられるので幼稚園の下の頃の如きは心の發達よりは寧ろ体の發達が盛んな時でありますから新入兒には尤もこの体育に重きをおかねばならぬと思ひます従ひて保育事項の如きも手遊恩物等よりは内遊唱歌ことに外遊の時間を多くして清淨な空氣の中で盛んに遊ばしめ十分身体の發達を助くるやうつとめなければなりませんそれで室内保育の如きは外遊の疲れをやすめるために入室する位でよろしいと思はれますこれ等教育と異り外遊時間の保育に重きをおく

五、附添の離し方

これにはいろ／＼考ふべきとも御座いますあまり長くなりまますから次回にゆづるとにいたします。

骨相と才能との關係 伶俐なる人と痴鈍なる人との間に骨相上何等かの相違ありやとの問題に就きて英國劍橋大學のヘアソン教授は科學的に多年の研究を爲したる結果此程斷定して曰く多少の相違あるも其差は數千人を平均して得たる極めて微少なるものにして殆んど區別なしと稱するを得べし更に之を精細に説明すれば大さと才智との間には多少の關係あるも單に頭の大さに就きて才智の多少を判斷する能はず若し之に依りて判斷せんとするとあらば大なる誤謬を生ず然れども人類を頭の大さに依りて二種に分つときは頭の大なる方稍才智の優れるを發見すべし又頭の髮、形状及び長さ等は才智と多少の關係を認め難きに非ざるも從來骨相家の認むる特長とは全然關係なしと

# 海水浴

## 新免義男

近年は瀛車の便を利用して處々に設置された海水浴場に夏期の休暇を送らるゝ方々が大層増加しまして各自衛生を重せらるゝ様になりましたのは、誠に結構なことと存します。就きまして大分私共に海水浴の方法や其功能や場所や山地と海邊との優劣などの御尋がありますから、今日は海水浴の生理的醫療に關係する事柄を一通り御話致しまして、海水浴を試みようとせらるゝ方々の御參考に供へ様と存します。

海水は御存知の通り鹽水で學者の海水成分表によりますと、食鹽が尤も多量に(百分中二五、一二次に鹽化マグネシウム(三、四) 硫酸マグネシウム(二、九) 炭酸石灰(二、四) 炭酸マグネシウム(〇、四)、其他、硫酸石灰、沃度化合物等の少量

か水に溶解して居る割合てあります。彼の温泉と同じく醫療上では海水を一種の鑛泉と看做してあります。海水浴はこの一種の鑛泉が直ちに皮膚に及ぼす所の効用ばかりでなく、更に、他の生理的醫療に關して効能があります。其れは先づ海邊の空氣であります即ち海氣の性質に注意するときは如何に人体に効益があるか解ります。

空氣は御存の通り窒素酸素の混合で海の空氣も陸地の空氣と異なることはありませぬが、之れを比較するときは山地陸地のように、海氣は甚濃密であります。それは酸素の量が陸上の空氣より量が多々あります。故に海濱に呼吸するときは肺に吸い入れられる所の酸素は自から多量になる譯です。

次に注意すべきは空氣の清潔であります。陸上の空氣中には有毒なる炭酸瓦斯を含むことは海氣中に於ける炭酸瓦斯の倍量を含むから、海氣は陸氣より有毒瓦斯が少量で且つ其他の有害な氣體や有機物の浮游も甚だ少です、又海氣中には有益なる阿

巽と云ふ瓦斯が多き爲め防腐の効があつて物を清潔にする力を有して居ります。

次には海氣は濕潤である海氣は陸上の空氣に比へますと平均水蒸氣を含むことは半倍多いのです。

其他食鹽分子の少量も混して居ります。故に海氣は穩かにして軟いものと云ふことが出來ます。

次には温度の均一である。海氣は其温度は常に均一で晝夜に因て變化を生ずることが少なく陸上の空氣は時々變化して止みませぬ海氣中に呼吸して居る状態は吸入器に對して居る如きものでありま

す。

次には海水は人体に向て如何なる作用があるかと云ふと學者が海水浴に就て生理的試驗をした其成

績に由ると、海水に浴する初期には身体表面即皮膚の温を消却し、尿管の末梢は急に收縮し、

一時は其血行が歇止するから血液は内部の臟機に充血します。次期の浴水には初期の反動で、大に

身体一般の血液は循環が強盛となります。故に

皮膚は蒸發の力を増し、食氣は増進し、尿の分泌が減量して尿素の如き不用物は増量して去つてしまひ、尿酸鹽、磷酸鹽類の分泌が減じて体量は多少増加します。一口に云へば新陳代謝機を盛大ならしむるのだと説明してあります。實際上初めて浴を行ふときは寒く戰き、動悸し、呼吸が短促するものですがこの不快なる感は忽ち去て愉快なる温氣を覺へ、神身共に暢ひ和らき。手足は活潑となり、學者の試験成績に能く一致するかと思ひ

ます、次には波動であります。波動の搏撃に應ずる筋の運動筋の努力は、海水浴に於ての體運動であります。且つ波動は神経系を興奮せしむる力であります。

以上は海水浴の有効作用を述べましたが其用法を目的によりて二法に分ち略述しますと冷浴と温浴との二つに分ちます。

冷浴を用て有効なのは滋養不給に原因する諸病、神經衰弱に因する諸病、皮膚弛緩に因する諸病等

わります。

滋養不給に原因する諸病は腺病、腺病性の子宮及  
 腫粘液漏、尙僕病、貧血症、萎黃病等でありませぬ。

神經衰弱に原因する諸病と云ふのは神經性胃腸の  
 弛緩、全身又は局部の筋衰弱、筋消削、或筋の麻  
 痺症、感觸過敏、ヒステリ症等でありませぬ。

皮膚弛緩に原因する諸病は僕麻質斯、皮膚過敏、感  
 胃の習癖、筋強直、呼吸器の慢性加答兒、粘膜系  
 の加答兒、扁桃腫腺脹等でありませぬ。

温浴を用するものは冷浴に堪へざる病者、脆弱な  
 る人、腺病質の小兒、虚弱なるヒステリー婦人等  
 で、又人の性質に従つて先づ温浴を取り、漸次微温  
 浴となし、后、海に入りて冷浴することがありま

す。併し心臓病、危篤なる結核病、極めて虚弱な  
 る人は海水浴を禁じなければなりません。是は利  
 益がなく、大害があるばかりです。

次に海水浴療法をなすには浴場を擇撰することが  
 必要であります。浴場の位置に付しましては氣候が

整正で變化の少ないのが宜しいで頼に寒冷なる晚

風を生ずる様なのは不良であります。大洋中の孤  
 島の如きは尤も適當で陸地の海濱よりも優るけれ

ども實際上擇撰に困難であるから成る可く本趣旨  
 に近きものを撰ぶのであります。海水の波動の強  
 弱に付ては海水の干満が大きくて波動の強いのが

良としてあります。浴場の氣候は暖和で強風のな  
 いのを擇はねはなりません。北風を防ぐべき爲北方  
 に高山岡阜を背にし南方又は南東に海を受くる地

が氣候が均一温和であります。又海濱は地質が岩  
 石にして細石が平らかに布れたる斜面の地を擇ぶ  
 が宜しい假令氣候は善良でも海濱は泥土にして濁

浪を生じたり岩礁多ければ危険で浴場に適しませ  
 ぬ。

海水浴に適する時期は七八九月及十月初旬を時期  
 とします、温浴微温浴の設備のある浴場なれば此  
 時期以外にても始むる事が出来ませぬ。浴場に於て  
 は成る可く快暢なるを主とし、精神及身体之疲勞

勞働を避け、酒色を禁し、其日常の生活習慣を變ずることは既に較著なる良効を奏する者であります。浴を行ふ日數一浴の時間は一定致しませぬ。それば各病氣によつて異なりません。概して二十五日より三十日間を通常とします。一日中には一浴で澤山です初日は久しく海中に浴するのは不可であります。そして一度の入浴時間は五分間より長きも十分間であります。而して一日中の適當なる時期は強壯の人は午前八時より十一時までを最良とします。食後は直ちに浴せず。一時間後にすべきであります。虚弱の人、神經家、ヒステリー婦人は午后四時より六時までを最良とします。浴を出ては鬆疎なる浴布で弱く全身を摩擦し、強壯な人は浴后冷なる常水にて雨浴をした后、全身を摩擦し、着衣するのが宜しい。浴后の冷浴は大に効を神經系に奏するものであります。

海水浴を始むるには胃腸の機能を調へねはなりません。平日酒を嗜む人は之れを禁するが宜しく又

禁しないにしても減制して極少量にして身体丈夫の充血神經系の刺衝を避けねばなりません。開豁なる海氣中に心置なき友人と手を携へて散布するは最も妙で頗る健康を助くるものであります。浴場は日暮は濕霧を生ずるものですから日暮に久しく薄衣で外氣に在るのは悪うございます。夜は九時十時に就褥して翌朝は六七時朝起をなすを良とします。

晝間の睡眠は疲勞しなければ爲ないのがよを御座います。食物は毎朝七時に單簡なる米飯、麵包、牛乳、雞卵等を食す、正午に午餐、午后六時に晚餐をするが適當です食物は凡て賦味難化のものを避けて、醱酵し易い豆類、消化し難き生野菜、脂肪多き肉類、鹽藏魚類を避けなければいけません。運動と遊戲は海水浴場に於て浴客の爲め必要であります。

何となれば日常操業の始終が同調氣味なるを一轉して浴場に遊び其變つたる空氣を呼吸し、日常家



にありて習慣にして居る舊癖を脱するには愉快な變化を必要とするからであります。故に器質の變化のない病患者には浴場は生活の機能を盛にして善良の健康を致さしめるものであります。

完全なる浴場には各種の病客が集合しますから入浴の長短、食物の撰擇等一定することが困難です。故に浴場には浴醫と云ふものを置いて之れが指揮を爲さねばなりません。(終)

▲米國最近の人口 米國最近の調査に據れば同國の人口は既往六年間に八百万人を増加したる由にて現在の人口は八千三百九十五万九百十人なりと而して同國五大市の人口は紐育四百十一万八千〇四十五人、シカゴ二百〇四万九千八百八十五人、費府は百四十四万七千三百三十五人、聖路易六十四万九千三百二十人、ホストン六十万二千二百七十八人なり此他の諸市も人口著しく増加し人口五万以上の八十八市平均増加率は一割六分三厘なりと云ふ

## 幼兒の一言

或る時大人の草履の斤方だけ、落ち散りありしを拾ひ來り

「先生、こゝに人間の草履が一つありました」

或日庭につくり置きし毒の實の熟せしを各幼兒に一粒づゝとりて與へしにそれを味ひて舌鼓をうちながら

「先生、僕のホツペタあつて？」

或日象の話をなしやりし時、此獸物はなんでも鼻が手の代りをする、喰べる時でも鼻が箸の代りになる、けれども象はおはなを、垂らさないから手や箸の代りになつてもいいけれども皆さんのやうにおはなを垂してはお鼻で喰べること出来ませんねーと云ひましたら

「それだつていいやあたいは象でないから」

## 都會と田舎の女學生

奥田高子

○學力に就いて 私 は都會の女學生に就きましたは、接する期の少ない爲め詳しいことは知りませんが、見聞した所に因つて考へますと、小學校の生徒は田舎の方が學力があり、女學校は殆んど同じ位で、専門學校になると都會の方が進歩してゐるかと思ひます。皆比較的に言ふのは勿論であつて、これは男子でも同じ傾向を持つてはゐないかと思ひます。其原因は種々ありませうが、智識の發達する度合に關係が大にあると思ひます。幼稚の時餘り智識の一方に逼りますと、學業などは後れるやうです。都會の尋常小學の四年生と、田舎の高等小學の一二年生と學力の點に於て等しいやうな學科があります。併し、理科殊に植物動物學に於て然りだと思ひます。それから音楽も然り

です。他の學科はこれに反比例のものが半数以上かと思はれます。何故かと云ひますと、其一例を擧げて云ひますなら、植物動物の如き實物教授を主とするものは、都會には、植物園、動物園、博物館、花屋敷などの實驗場が多くあつて、學校以外にこれ等に關する智識を得ますが、田舎にはその便利が極く少ないのであります。音楽の如きも都會は音楽隊、音樂會の如きものが多くありますから、自然音樂の耳が出來ると云ふやうな譯になります。これに反して、學理的の學科に就きましたは、田舎の生徒は他に氣を散らさずして、一心不亂に學業を勵むと云ふことがあります。都會の生徒は、餘り多くのものに接觸して常識の方が發達し過ぎて、學科の方に後れを取るのには止むを得ないのであります。今一つは、教員の熱心不熱心に關係すると思ひます。この點は別に一問題として論ずる價值があります。茲には大体に止めて置きます。都會の教員は、一概に斷定は出來ません

が、小學校教員の職に肯せず、尙ほ進んで發展せんとする人が多く、従つて教職以外に修養の方に大に力をそゝぎます。修養と云へば大いに体裁はよいが、教職に餘り益にならぬ方角違ひのことを一生懸命にやつて、却つて本職を副業とする人があります。私の知つてゐる入に、法律を研究して傍ら小學校に職を奉じてゐる人がありますが、授業中でも、習字、書取、圖畫のやうな手数のかゝらぬ時間には、法律書を繕ひてゐると云ふ始末、殊に滑稽なのは、尋常科三年生の習字帖に、株式合名、合資會社とあつたのを講ずるに當つて、商法の講義を法律家が講義するやうな調子で以て、一時間話したと云ふことがあります。後で人が聞いたたら、司法官試験を受ける口頭辯論の下稽古であるとして済ましてゐたとは驚いたではありませんかこの外一時腰掛的に奉職してゐる人は少なくありません。この人等は學識が多くありますから、教科書以外の智識は多く附けませうが、熱心があり

ませんので、生徒の學力は左程進歩せないのでこれに反して、田舎の方は、皆教員が一の教職を終生の業務として熱心にやりますから、教育の目的は相當に達せられる譯であります。私の考へますのには、教育中初等教育が最も必要でありまして、即ち小學校が基礎ともなるべきでありますから、この時に於て眞面目に教育せねばならぬと思ひます。斯く云へば、都會の教員は不熱心と聞へますが、比較的さうであると云つた迄でありまして絶對的に申したのではなりません。中等教育になりますと、前に述べたのと稍々其の趣を同じくしてゐますが、兩者とも學力が等しいやうになると思ひます。智識も追々調和するやうになり又教員も小學校教員程の弊がないからです。それから専門學校になりますと、どうも都會の方が何事にも進歩してゐるやうです。専門學を修めるには是非智識が必要ですから、其點もありませうし、社會の凡ての方面に經驗して、實地と

學問と調和すると云ふ所にもあります。又教員も、田舎よりは都會の方がよい教員を得たいのであります。従つて學問にも影響いたします。

○風儀に就いて この點に就きましては、總じて田舎の方がよからふと存じます。其重なる原因は、教師と生徒との間が圓熟であること、學校と家庭との連絡あること、生徒が教師を尊敬すること、生徒が質朴であること等によると思はれます。都會殊に東京の女學校でも、柵橋、三輪田、下田、跡見さんの女學校はよく行届いてゐるやうですが精神教育の殆んど行はれてゐないと思ふ學校もあるやうです。専門學校は兎に角、中等及び初等の學校に於きましては、品性陶冶が最も大切でありますから、十分この點に注意する必要があります。多く都會は浮薄の風があり、生徒と教師の情宜が冷淡であると云ふことは免れません。これが教育上甚だ遺憾に思ふ所であります。田舎の小學校や女學校の生徒が、教師を尊敬することは、とて

も東京などの學校と比べものにはなりません。これは田舎の一つの美德と云つてよいのであります。併し、田舎は野暮でありますから。東京の女學生に比しますと、外見甚だ見劣りがします。それで私の考へますには、田舎育ちで東京仕入れがよいと思ひます。

すると丁度兩者をよく調和した婦人が出来ませう。少なくとも小學校卒業までは田舎において、それから都會で注意して養成すれば、程のよい人が出来上りませう。

近頃は一般學生の風儀が悪くなつて、世間では餘程八ヶ間しく云ふやうになりました。特に東京の學生は殆んど亂れてゐるやうに田舎での評判であります。私が、見ますのに、ある人の云ふ程極端ではありません。東京は週圍のものに感染したり又敷が多いからよく目に附くからで、中には眞面目な學生も多くあります。彼れこれ言はれる女學生は、監督者を設けないうで、一人で東京の眞

中に放任してゐる者に多いのです。又そんな放任者が澤山あります。一定の學校に入つて相當の監督者の下にある者には、墮落生は極く少數であつて、學校にも通はず監督者もない者に限つて世人にかけこれ云はれるのです。東京には學校に通はないで下宿屋の二階に遊んでゐる學生が、男女合せたら二三万人はゐませう。こんな連中に加ふるに、印刷局や諸會社の職工が、皆學生風して野卑な眞似するから、尙更學生が悪く見へます。女工が海老茶袴をはいて風呂敷包を抱へ、男工がフランス帽を被り袴をはいてゐるのは珍らしくなく、一見學生と異りません。これは何とか區別を附けねば學生が少なからぬ迷惑をします。そして田舎には、こんなまぎらはしい職工や、下宿屋で遊んでゐる學生が少なくて、眞面目に通學してゐる誠の學生が多いから東京程には目に附きません。又多くは父兄の下から通學さす便利あります。又問題外ですが、女學校を地方の需要を充たすだ

二十八  
けに設置すれば、右の弊害は少なくなると思ひます。これは經濟問題に大關係がありますから、實行は理論通り出来ませんが、私はこの理想の行はるゝのを希望するのであります。

▲娛樂と慈善費 英國のソルトン僱正は去月ブレストン市に於て説教の際歎じて曰く英國の某市にては此程一同フットボール競技に一万四千圓の入場料を得たるものあり然も同市民が海外布教費として一年間に寄附したる額は僅に二千百廿圓に過ぎず又米國にて檳榔草の消費額は一年に一億一千万圓に上るも海外布教費としては僅に三百万圓を寄附するのみなりと孰れの國にても快樂の爲には金錢を吝まらず人を救ふ爲には容易に出金せざるものと見ゆ

▲香水の爲に訴訟沙汰となる 去月伯林に於て香水の事より珍らしき訴訟事件起りたり同地某商店の主人は女の一店員が濫りに香水を使用したるため顧客を失ひたりとの口實の下に解雇したるより其店員は店主を對手として損害賠償を要求したるなり裁判官は其店員の使用したる香水を検査し且つ他の店員を召喚して顧客を失ひたるや否やを尋問し終に店員の要求を至當なりと判決し更に店主に對し五馬克の罰金を課したりと

# 美顔術に就いて

軍醫宮崎 北洲

近頃美顔術と云ふことが世間にはやざれまして實に不思議なことだと思つてゐます。佛國の小説を八年程前に讀んだ時に、ある技師が美顔術をやつたと云ふ奇妙なことが書いてあつて、自分も變に感じてゐました。所が近頃小説所でなくてこの實在界に實行するとは驚きましたね。しかもこの日本國と云ふに至つては層一層の驚きをせざるを得ない、自分もこの顔が美しくなるなら少しの金は捨ててもよくして見たいと思つて、ある時大坂の美顔術家へ参りました。どんなことをするかと思つて好奇心やら喜悅心やらにかられて待つてゐますと、秘傳と云ふやうな口調で其方法を教へて呉れました。自分は實に驚いたのです。驚いたと云つても美男子になつたからでなく、其無造作と滑

稽とに驚いたのです。今美顔術家の言つたことは西洋の藝者がやる化粧と同一であつて、何も特更美顔術で候のと云はなくても、自分は昔からよく知つてゐたのである。顔を美しく洗つて白粉を附ける位なことは知つてゐるが、まさか白粉を附けて往來を歩行する譯に行きません。こんなことを美顔術と云ふなら、俳優は正に美顔術家です。彼の團十郎が七十一歳の時八百屋お七を演ずる時、十七八の娘に見へるか否かを試す爲め、十七八の娘の姿で自分の家へ行き、團十郎さんはゐますかと尋ねしに、妻君が娘の尋ねたのを見て焼餅やいたので、これなら大丈夫と舞臺に表れて老後の花を咲かしたと云ふことがあるが、團十郎は立派な美顔術師で、博士號を與へてもよいと思ひます。理學や醫學が長足の進歩を爲して來たら如何ですか知れませんが、今の所では顔の形を變じてよくすると云ふやうなことは出來ないと思ひます。アバタが取れたり、角な顔が爪のやうになつたり、青



い顔が櫻色になつたり、眼尻の下つたのが程よくなるなどは、今の所人工では駄目です。世の人は美顔術と云へば丸で變形さすやうに思つてゐる人があります。一つの化粧術に過ぎないのであります。勿論化粧の如何によつて餘程變化しますから、美顔術をやればよく見へるのは當然ですが、やらなければ元の顔に復するのです。

世の中には随分好奇心の強い人がありますから一時流行するかも知れませんが、決して賞すべきものではありません。併し害はないやうですから催眠術の弊はありますまいが、金を費してさわぐ程の物ではありません。神戸や大坂地方の女學生がこれが爲め少なからぬ金を費してゐる者があるやうですが、これはハイカラのオシヤレのする事です。親から産んで貰つた顔を、殊更變形するに苦心する必要はありますまい。この流行は人を輕薄に導く恐れがあります。教育者や父兄たちは注意すべきことであると思ひます。自

分は美顔術に就いて研究はしてゐますが、未だ初步に過ぎませんから、茲にこれ云ふことは出来ません。又何れ研究した上で更めてお話することにします。

### ▲故女皇の信書出版

有名なる倫敦の出版業者ジョン・ムレイ氏は今年十月に英皇帝エドワード陛下の裁可を得て千八百三十七年より千八百六十一年までに故ヴィクトリア女皇が諸方へ發せられたる信書を集めて出版せる由にて其中には女皇の配偶者たりしアルバート親王に贈られたる書信自由貿易を論ぜられたる書信印度發亂の時の書信等歴史上重要な出来事に關するものを含み歴史上稀有の有益なる一大著書たるべく英國の皇帝が親から此種の圖書出版に裁可を與へら たるは前例なきとなりとして編纂者はエシヤー伯及びベンソン氏なりと

# フレール總會雜感

なにがし

▲例年四月二十一日は幼稚園の創設者にして幼児の父と呼べる、フロエベル氏の誕生日として、フレール會にては、特に此日を選んで、毎年總會を開くことに定まされり。

▲今年の總會は、恰も月の第三日曜日、上野隅田の櫻は晚咲の八重のみ残して、既に見る影もなく散り果てたれども、名にし負ふ、博覽會に西より東より南より北より吾もくと集まり來て、人々の心も空なる今日此頃のことゝて、集まる數も如何にやと思はれしに、さすがは、斯道に熱心なる人々の集まりとて、空の程も危ぶまれしにも係はらず、例よりも、多數のうち集はれしぞ、殊に嬉しかりき。

▲開會の時刻午後一時には、既に過半集まりぬ。

殊に今日は例に似ず、幼き子達の數外く見えられしは、會の趣意にも叶ひて、幼児の父と呼ばれし君の紀念には、如何ばかり相應しかりけん。會の始まるまでの間花の如き少女、無邪氣の男兒等の遊園に出で、あるは花壇の間に、あるは小山の上、三々五々、馳け廻はる様の、いかばかり可愛かりしよ。

▲例に由つて、一室に幼児の手になりしものなど陳べあり、あまりの人込によくは見られず。一二の玩具は、一寸面白し目新らしきものなりき。これに付きて思ふは、例年、別に變りたりとも覺えぬ成績品の陳列よりも、會にて新奇なる玩具など集めて、これを展覽に供せられなば、一層趣味多からんか、更に望まば、外國あたりの幼稚園の子供の手になりしものなど、近頃のを集めて、示されたらば、更に益多からん。何れは、かゝることなども、追々計劃せらるゝことなるべし。

▲やがて會は高嶺會長の開會の辭に由りて開か

れ、保姆合唱の歌は、有志の人々に由りて唱はれぬ。歌詞は、前々校長細川男爵の作、曲は奥氏によりて物せられしかと思ふ、いつもながらさすがに感興深く、當日の演説者は、瀬川醫學博士と、此頃歸朝せられし、齊藤教授となりき、瀬川氏は病兒の處置に付きて話さる。確に有益のお話なりしかども、餘りに時間の短かくて、何となく惜しく物足らぬ感のせられしは、吾のみなりしにや、齊藤教授の外國留學中、彼國にて見聞せられし子供の教育に關する話は、今迄度々聞きたりしとは趣異なりて、殊に有益に拜聽せられぬ。

▲演説の次にはオルガン獨奏とありしが、奏者に障り出來たりとて見えられざりしは残り惜しかりき。金森氏の獨唱中々巧妙、阿部氏の薩摩琵琶、常陸丸の最後と、今一曲は別れの國歌、感極まりし鼻打ちかむ人々も所々に見受けられぬ。

▲琵琶すみての後庭園に出れば此所には、三所許に、さいやかなる懸け店を設けて、おすし、團子、

菓子なども勧められぬ。腹脹らせつゝ、日頃かけ離れ居る人々と、互に無沙汰の挨拶などし合ふ。

▲三時半には手品の餘興ありとのことにて、幼き子達は殊更ら、そを樂しみ待てり。やがて時は來りぬ。既にして四時と過ぎ、又半も過ぎぬるに手品師といふは未だに來らず、空はますます危ぶなげにかき曇りぬ。餘りの待ち遠しさに、人々はや歸り支度忙はし。幼子達は、さなから失望の姿なり。

▲「チリンチリン アモシモシ アナタハ○○○ 學校デスカ」ハアソードス「アノ私ハ○○○○○ ○學校デスカガネ、アナタノ學校ニ今日同窓會ガアリマスネ」アリマスガ同窓會ヘノ取次ハ煩ニ勝エマセンカラオ斷リシマスヨ「ア、ソードスカ、然シ極簡單ナコトナンデスカラ……其同窓會ノ餘興ニ手品ガアル様デスカ、夫ハモ一濟ンダンデスカ」

「ソリヤ分リマセン」「然シ其位ノコトハ聞イテ吳レタツテヨイデシヨウ、同窓會ハ、アナタノ學校ノ仕

事デシヨウ「何ヲ言フンデス、聞イテクレタツテ  
宜イデシヨウトハ何デス、同窓會ハ學校ノ仕事デ  
アリマセン」オヤ／＼ンデスカ 學校ヲ使ツテ  
校長ガ會長 デ ソシテ學校ノ仕事デナインデス  
カ「エーソードス其事ハ前モオ尋ネデシタカラ、  
小使ニ聞カセルトイツテオ答シタノデス」ソレデ  
ハアナタノ方カラ更ニ知ラセテクレルンデスカ」  
「知ラセテクレルンデスカ？ ナゼソソナ念ヲ押ス  
ンデス、知ラセテ下サイト頼ムノナラ知ラセマス  
ガ、チリーン

▲電話ゴシにての議論、さて何事かと聞けば此日  
府立〇〇〇〇〇學校にも、同窓會ありて、手品師  
は、その餘興を卒へて、三時半に當方へ来る約  
束なりしを時間過ぎて尙來らねば、幹事の一人、  
其學校へ電話にて、もはや手品は済みしにや、濟  
みしならば、すぐ當方へ來らるゝ様頼まんとての  
先方の傳話が、りととの應對にて、結局要領を得ざ  
りしなりといふ聞けば彼の學校の校長なる人は、

殊に温厚の徳高きを以て聞ふるに、さるにても其  
下にかゝる役人もありけりと、傍なる人々の一同  
に眉瀕めしも、げに理はり覺えたり。

▲來らん年より望まじきことは、この總會の日を  
特に、幼稚園の記念日と定め、なるべく多く會員  
の幼き君達をも伴うて臨まれんこと之なり、會に  
ては又この當日は、これ等の子達の爲めに、愉快  
なるこの一日を過ごさせんがために、別に一室を  
設けて、こゝを遊び場とし報告演説等の際には、  
この室に集めて、あるは遊戲に、あるは玩具に、  
思ひ／＼の樂しみを取らせて、時々には會場に出  
で、小さき唱歌の合唱に集まれる人々の興を助  
けさせて、餘興の折などに、大人も共に打ち群れて  
打ち興じなば、如何ばかり、趣味多くて樂しみ深  
からん。かゝる組織の會は、世に少なし、子供數  
多く待たせらるゝ母君達の、安心して會に臨るゝ  
様なさんには、かくすること、最も便利なるべし  
會の本旨にも叶ひて、いと相應しからん。切に望む

迷ひ子

朝露生譯

わが子をはひるはいと愚かなることでありま  
すが、瑠璃子はまことに可愛ゆき幼顔にて、細面  
なものはぢしさうな、見るからにいぢらしく、キ  
ッスせず居られぬ顔だち、それに黒き腫のもの  
云ひたげにキラキラして、きやしやな身ぶりの、  
いつも舞踏でもはじめのやうな足どり、表は白く  
裏は緑なる日よけ帽子と、お玉さんと云ふ人形と  
は、いつも附屬物でございました。そのお玉さん  
を、どう云ふつもりか、いつも倒まにしてもッて  
あるいて、朝の六時から晩の六時まで、機嫌よく  
遊んでゐる子でございました。  
アレが迷ひ子になりましたのは、たしか四ツの時  
でしたと存じます。御まちなさいませ、その時の  
こと御話いたしませう。

ある日のこと、私は急ぎの縫ひものがありまし  
て、一心に針を運ばしてゐました、フト見るとる  
り子はいつの間にか傍に来てゐます。日よけ帽子  
と人形は例によりて身を離さず、しとやかに私の  
脇に座りてものはししさうな、その顔を私の袖に  
接觸しました。私は丁度忙はしき折とて、小指にて  
軽くその頬をつつついたまゝ、何とも云はずに針  
を動かしてゐます。暗くならぬうちに、ボタン  
の穴をみんな縫ひ留めて仕舞はねばならぬのでし  
た。るり子は私の腕にすがりついて、かあちゃんあ  
まり、ひどいことよと申しました。つぶやくやう  
な涙聲で。  
ほんにかあちゃんはアマリひどいことチー。ポタ  
ンの穴なんか何時でもよいのに、何より大事の御  
前を余所にしてネーと、そのまゝ抱きあげて、御  
詫の分までもキッスしたのです。  
その夕、食事のあと、一家團欒してお茶を頂いて  
ゐましたが、例のお玉さんは、例の通り倒まなつ

て、るり子の膝に載つてゐました。隣村まで一驅車させたいが、るり子を連れてゆつてもよいかネとは、おとう様の御言葉でした。

いけません、るり子は三十分後にはおねまきに着かへて、ネンネするので、いくら馬車でも今晩は寒くもあるし、私は御断り申上たのです。るり子は、例のもの云ひたげな睡を私の方にむけました、何も申しませんでした。残つた御菓子と頂き、御茶も飲み了へて、お玉さんと日よけ帽子を携へ、お玉さんは、無論倒まにして、一寸と戸外へ出たやうでした。

それツきりるり子は見えなくなつたのです。三十分後に私は乳母に命けました。るり子を早くつれて来て、御ねまき着かへさせな。乳母は戸外にゆきました。そしてるり子さんるり子さんと呼んでゐる聲がします。けれどるり子のいつもの可愛らしき聲はきこえぬやうです。何だか氣になるもんだから、乳母の聲をたどりて、私もゐながら

戸外をさまよふてゐました。花園の方から、倉庫の方まで、倉庫の方から馬屋の方まで、尋ねてゐる様子、ハテナと云ふや否や私も戸外に出でました。

乳母や、どうしたの、るり子はゐないのかネ。奥様、どこにもゐらしやらないやうでございます。私は臺所に引きかへして、おさんに尋ねました。さんや、御前、今のさつき、るり子を見ないかへイ、エ、奥様、チットも存じません。私はこの時もはや動悸がしてなりません。私はこの時たところが半里もある一軒家、まだ程近き河と申しても、るり子は今まで一人でゆつたことはないのですもの、どうしたのでせう。乳母も氣が氣でないやうな顔つき。乳母、御前は急いで御隣りの峯村さんに行つて御出、若しやるり子はわがツてゐるかもしれないから、わたしは太助をつれて河の方へゆつて見るよ。太助や、牛乳を絞ることはわたしにして、わたしについで来ておくれ。夢路を急

ぐやうな心地して、河へくだりゆく道すがら、荆棘のかけも倒れ木のうしろも、一々立ちとまりてはのぞきてみ、さては一と足ごとに、るり子やり子やと呼んでゆきました。けれどどうしても見あたりませんでした。河の岸にも、小さな足跡はなく、人形も帽子も落ちて居るぢやなし、これぞと云ふ手がゝりは殆んどありませぬ。私は唯一と眼河の水をのぞいて見ました。けれどそれはホンの刹那でした。どうしてあの子はそんなことになつてたまるもんですか。とかくするうちに、日はすてに西の山にかくれ、たそがれの景色は、いとどうら淋しくなりました。怪しの鳥はかなたの森にさけび、足もとに鳴く蟋蟀さへ薄氣味わるくさこゆるのですもの、その吹く夕風のあらなくに、私は身ぶるひいたしました。それにしてもるり子はどうしたのでせう。ア、ふとう様ばかりも御早く御かへりだといいに。私の歎聲にすぐ御答してくだすつたやうに、眼の前に馬車が現はれ、良人

は御歸りでした。はしたなくも御手にすがりて、ありし事どもを申上りましたが、心配することはない。どこへゆくものか。と軽々しく仰せられて、わざとらしく御笑なさるのです。日は全く暮れて仕舞ひました。西の空に糸一束ほどの余光あるばかり。サアすぐうちに御歸りよ。是處に立つてゐたツてどうなるものか。御前は太郎と家にゐてまつてゐな。太郎は乳ほしくて泣いてゐるかもしれぬ。良人にかく云はれましたから、私はわりなくも家に歸ることとして、一と眼良人の顔をのぞきましたら、暗にもしるき心配の色、まさしく蒼くなつてゐらツしやるのです。太郎を揺籃から下ろして、襦袢をとりかへなどしてゐるうちに、私の胸は石のやうに重くなりゆきます。マアこんな墨ながしたやうな暗の夜に、アノ子はどこにどうして居るとやら。ア、黄金にも玉にもかへがたき可愛い子を、むざむざ母の手から奪はるゝことか。

乳母は太郎の乳をもツてきて、お隣にはぬなかつたことや、良人では再び河へゆつたことや、うちしめりて話しました。それでは彌々河へ……と私は両手を顔にあて、泣き伏しました。

咄嗟に戸が開かれて、ア、夢ならさむるな、るり子はまさしく私の前に立つてゐます。髪は亂れ着物はよれて、いかにも睡むさうな眼つき口つきお玉を倒まに腕にかゝへ、片手に帽子を提げてゐました。るり子です。たしかに。

私はい意味もなく叫びました。泣いたのやら、笑ふたのやら。マアるり子や、御前はどこへゆつてゐたの、御前は迷ひ子になつて、河へ落ちたと思ふたよ、ア、うれしいよく御前はかへつてきておくれたネー。あたいた知らなくつてよ。かあちやん。あたいた眠つてゐたのでせう。るり子は眼をこすりながらこう云ふのです。何はさて、しつかりと抱さゝかへて、アノ子の頭を私の胸につけ、耳に口よせて、尋ねました。るり子や、御前どこに

ゐたの、髪はこんなに亂れてサ、着物もこんなに皺くちやになつてゐるネー。でもマア歸つてきておくれただから、かあちやんはうれしいよ。顔のいづこともなく幾度かキツスしながら私はかく申したのです。御前、御茶をいたゝいてから、どこへゆつたの。アノネかあちやん、とう様の大きな荷車ネ、あの中にはいつてゐたの。これですつかり解決されたのです。

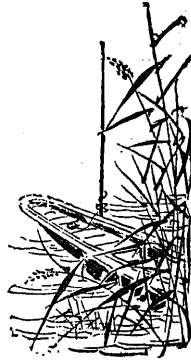
藪を敷いてゐた荷車の箱の中にはいつて、そのまゝ睡つてゐたのでした。裏庭の隅にあつた車まで、私共は幾度もそのそばを通りましたが、藪の中に大事の品物が隠れてゐるとは、誰れも気がつきませんでした。

なぜ御前はあんな高いところへ攀ち登つたの。今度からあんなことすると怪俄しますよ。御よしなさい。いゝ子だから、るり子はお愛嬌に私の頬を指にてなでながら申しました。あたいたお玉さんと一驅車したのよ。おとう様の馬車に乗りた



かつたんです、けれど、かあ様はやつてくださらないし、だからわたいとお玉さんと、馬車ごっこをして遊んだのよ。呆れた子だネーと一家笑の種となりて事すみましたが、その折の心配、御話にならぬほどでした。御察し下さい。

(ジュリヤ、ドール夫人の小話集より)



割烹

石井泰次郎

茶碗 碁石 木の芽  
わらび かれひ

六寸はかりの鏝を、うろこをふき、頭を去り、腸を取り去りて四節にふるし、皮付のまゝ、五六分の幅づゝにたてに切りそれを横にして、又五六分

づゝの丈に切る、即ち五六分の角に切りたるなり切りたるを、背の、黒皮の付き方と、腸の方の白皮の方のとを、別々に平皿にならべ(皮の方を下に身の方を上にして、鹽をふりかけて暫く置き(二三十分間)次に、蒸籠の中に竹の皮を敷き、其中へ鏝を水にて洗ひて鹽を落し、並べ入れ、湯鍋の上にかけて蒸して、用ふるなり、わらび(小二把、二寸位の丈のもの三十本ばかり)は、根のところを取り去り、水にてよく洗ひ、湯鍋に入れて十分間湯煮し、炭酸ソーダを入れたる水の中に取り入れ、其まゝ暫く置き、あくを出して後用ふるなり、茶碗の汁のこしらへ方は、先づかつを煎汁一升を鍋に入れ、火にかけて煮立ちたる所へ、酒二勺、次に鹽五勺、醬油一勺(但し品により多少の加減あるべし)を加へ味を試みて火よりふるし茶碗に、かれひの黒皮、白皮を交ぜて入れ、わらび二三本を入れ置きて、右の汁をつぎ入れ、木の芽をひとふさおとし入れ蓋をして進むなり、



雜錄

●女子高等師範の保育實習科 同校に於ては去る四月四日豫科入學試験を行ひ十名の入學を許可したり、左に記する同試験中の國語科問題なり。

國語科

(甲) 左の文章を通譯せよ

一、わが山里にだに猶めづらしう柴の戸ひきはなちたれど、例の獨はいとさうざうしうなむ、梢の雪花ならば手折りても御覽せさせむを、すべなくて今朝の間すぐまじと驚しはべるを「馬に鞍おけ」といそぎ仰せ給はばいと、うれしうなむ、

二、通常の景なりとて僅に配合を異にすれば佳景となることあり。例へば荒廢せる庭園の如き月色と梅花とを添へて忽ち無限の趣味を加ふるこなしとせず。曙光の如き殘照の如き飛雲飛雨の如き鳥聲蟲聲の如き皆境遇いかんによりて情緒を添へ來るものなり、杜小山が句に

尋常一様窓前月

縁有梅花便不同  
と云へるもまた此邊の消息をすものなり。

(乙) 左の辭句に讀方並に略解を附せ

- 一 汗牛充棟
- 二 疾鳥迅雷も及はず
- 三 出藍の譽れ
- 四 温故知新
- 五 襁褓させてふ蟲の聲
- 六 庭訓往來
- 七 禍を嫁す
- 八 埴生の小屋
- 九 片側破り
- 十 愚公山を移す

以上甲乙にて二時間

(丙) 國語 作文

一 保姆たらんと志望は如何にして起りしか

右書簡文體にて述ふべし

二 假想旅行記又は野遊之記

右何れか一を選びて普通叙事體にて記述す可し

以上二時間

會報

本會第十二總會 本會第十二總會は豫告の如く四月廿一日フレイベル先生の誕生日を以て午後一時女子高等師範學校幼稚園に於て開會せられたり時恰も春風駘蕩の候夜來の降雨名残りなく晴れ日影のどけき日和として墨田の堤間はんよりは馴染の會にと歩を運ばれたる會員諸氏同志の友愛らしの幼児受引きつれらるに來會せられたる百五十名の多きに達しぬ爛漫たる櫻花さしたる青銅の大花瓶はゆかしく演臺近く捨ちられ縁深き磁なれ松にて飾られたツルレーベル先生の額は正面の壁上に掲げられ周圍の壁上また吳書のになれるあまたの小扁額にて飾られたる會場にて定刻開會、會長の開會の辭、に次ぎ會務報告幹事改選を終りし後瀨川醫學博士齋藤文學士の有益なる演説別頁記載ありつゝきて獨間奏樂ことに言啞學校生徒阿部氏の常陸丸、別れの國歌の兩曲には涙拭へる嬢だちも見受けられた 右終りて園遊會にうつり吹く風寒からぬ極園の彼方此方天幕かけわたしたる中茶菓喫しつゝ、懇話數刻午後五時過ぎ解散せり遺憾なりしは手品師員の約に違ひて來らざりし。



## 五頭のさなだ虫

彌彦

むかしある田舎に大層な素封家がありました。その主人を金藏と申しましてまだ今年僅かに二十才の若者でした。然し自分の家が金満家なのでたのんで學校にも行かず仕事もせず毎日くくブラくくとわそんでばかりをりました。金藏の仕事は煙草を呑むと自分の家の二階からボンヤリ往來をながめているとこの外にはありませんでした。朝は寝坊をしますのでいつでもあさ飯と晝飯とは一所です。晝飯をたべましたあとでも退屈のあまりいろくの御菓子やら果物やらをシツキリなしにはらばつていますやがて夕方になりますとまた

晚餐ばんさんをそれはく大たいそうな御馳走おちそうでたべます。い  
つおひるがすんでいつ晩飯ばんはんがはじまつたのか別わから  
ないなど、召使めしつかひの下男げなん下女げにょなどに影口かげぐちをいはれま  
しても金藏きんぞうは平氣へいきで少しもあらためる氣色けしきも御座ござ  
いませんでした。

かいしい物ものばかり食たべまして少しも運動うんどうをしない  
金藏きんぞうはダン／＼と肥こへてまるで御腹おはらなどは米俵こめだちの  
ようにエゴ／＼となつてしまいました。

従したがつて氣分きぶんもあまりすぐれませぬ。そこであちら  
の醫者いしやこちらの醫者いしやと方々うらづの名なのある御醫者おいしや様さまを  
よびまして診みて貰もらいました。そして水薬みづぐすりやなにか  
まるであびる様ようにのみましたが素もとよりどこが悪い  
と云いふのではありません。尤もとも金藏きんぞう自身みづかみは四百四  
病びやうを皆みなわづらつている様ような氣きがしたでしょうが、  
たゞ不養生ふやうじやうで御醫者おいしや様の云いふとは一つもききませ  
んののでいつ迄までたつてもよくなる様子ようすも見えませぬ  
でした。

或日あるひのを金藏きんぞうの御友達おともたちが参まりました時金藏とききんぞうはブク

くした御腹おはらをさすりながらしきりと自分の不健ふけん  
康かうをなげきましたそこで友達ともたちの云いふには『私わたしはこ  
から三拾里りほと程ほどへだつた一つの村むらに大たいそう上手じゆうず  
な御醫者おいしやがいると聞き及びおよびましたからその人ひとに診み  
て御貴おんぎになつては如何いかです軽い頭痛づつうなどはその御  
醫者いしや様の顔かほを見みたいけで全快ぜんくわいしてしまうそうです  
これをききました金藏きんぞうは大喜おほよろこびによるこびまして  
早速さつそくその御醫者おいしやに來くるよう手紙てがみを送やりました  
金藏きんぞうの手紙てがみを見みました御醫者おいしやはす金藏きんぞうが何病なにびやう  
あるかを悟さとりましたそれは不攝生ふしやくじやうと云いふ病氣びやうきでし  
た。そこでこの上手じゆうずな御醫者おいしやは次つぎのような返事へんじを  
出だしました『あなたのお病氣びやうきは大變たいへんに性質せいかうがよろ  
しくありません打うちすて、をけば一命いちめいに關かはりませ  
明朝めいあしたすぐ私の宅わたくしたくに向むかつて御出發おんしゅつぱつなさい。實じつはあな  
たの御腹おはらの中には五頭ごとうのさなだむしがいます。そ  
れですからあなたは私の宅わたくしたく迄まで幾日いくにちか、つてもよろ  
しいからユツクリと徒歩とほしていらつしやいもし途と  
中馬ちゆうまや車くるまにのればあなたの御腹おはらの内うちの虫むしはすぐあ

なたの九腸を寸断してしましますそれからあなた  
は三度の食事以外に何物をもめし上つてはいけま  
せんもし何か上ればそれは皆虫がたべてしまいま  
すそしてドシ〜と大はくになります』

この手紙を見ました金藏は翌朝はやく御醫者様の  
云ふとほりテク〜とあるいて家を出ました。

毎日〜ゴロ〜となまけくせのついでに金  
藏にはテク〜と徒歩するのが物らく覺えられま  
したのでその日は二三里で旅館にとまつてしま  
しました。翌日目がさめますと大層気分がよい様  
ですから又元氣をだしてテク〜あるき出しました  
その日は始めの日よりもすうつとたくさんあるけ  
ました。偕その翌日にはもう病氣の様な氣色は少  
しも御座いません。かように致しましてこの御醫  
者様の所に金藏が参りました時にはもうどこも悪  
い心地がしませんでしたのでたゞあつく御禮をの  
べて又あるいて歸宅致しました。

金藏は運動が何より身体の健康に益があると云ふ

とを悟り又開食がなによりのだとくであるといふ  
を感じました。その後金藏は至極壯健に長命い  
たしましたとさ。めでたし〜

## 太郎と犬

### 硯山人

或處に太郎と云ふ子供がありました。或冬の日  
曜日、今しも學校から歸つて来た所で、お椽側へ  
本の包みを投げ出して「お母様只今！」もそこ  
〜にすませて何時もなら何か頂戴！と云ふ所を  
今日は何うしたのか何とも云はないで裏庭の物置  
へと入り込みました。何をするかと思つたら、  
太郎は頓がて物置の柵から金鎚やら、釘やらを取  
り出し、そして板片を四五枚集めて、何か頻りに  
打ちつけて居りました。あまりトン〜ガタ〜  
ゴリ〜と喧ましく音をさせたのでお母様はお氣  
付になりました。

母「太郎やお前は何をなさるのでですか、大層喧ましのネ」と仰いました。

太郎「今ね、母様、面白いの構へて居るのです。」

ソレハ「面白いの！」

母「ソレは結構だね、何が出来ますか」

太郎「アノネ母様、僕は今箱車を構へて居るのです。」

そして明日は此車をジョンに引かせて山へ皆と石

を取りに行くんです。面白いでせう」

ジョンと云ふのは太郎の大好きな小さいむく犬の事

です。すると母様は

母「それはいけませんネ、そんな可哀そうな事をし

てはいけません、ジョンはまだ小さい子供犬です

から、そんな重い物を引かせては可哀そうです。

それよりも其箱をお前が引いてお行でなさい「小

犬には可哀そうです」

と仰いましたが、太郎はまだ不服です。

太郎「私いやです。重いんですもの」

母様「ソレ御覽、太郎にも重い位のものを小犬のジ

ョンに引かせるとはひどいではないか」

太郎「それでもジョンは犬ですもの痛かありません

よ、など、耗らず口をきながらガタ／＼叩いて

居ました。

頓がて夕方になりましたので母様は

「太郎やジョンにお飯をお遣んなさい。お腹が飢

つたらうから」と仰いました。

「ハイ只今」と云つたきり、一切夢中でトン／＼

叩いて居ました。

日の暮々になつて漸く箱が出来上りました。

「さあ明日は之をジョンに引かせて遣らう、面白

いなわ」と太郎は獨り言云ひながら、あまり疲れ

たので暫く茫然して居ますと、又母様の聲で

「太郎や、ジョンに御飯をお遣りかへ」と云ふ御

尋ねです。太郎は今迄すっかり忘れて居たのです

「わ、母様、忘れしました。いゝでせう今片付けて

からでも」

母様「忘れたんですか、可哀そうですよ、片付ける

のを後にして早くお遣いなさい。」  
と仰いました。太郎は平氣です。

「ナニ犬だもの構ふものか」とつぶやきながら向ふの方に鼻を鳴らして居る寒さうなジョンの鳴き聲を聞きながら自分勝手な仕事に夢中になつて居ました。あまりジョンの鳴き聲が可哀そうなので遂々母様は起つて行らして魚の汁をかけたお飯をお遣りなさいました。そして太郎に向つて

「太郎や、なぜお前は自分の勝手な事ばかりして居て云ふこと聞かないのです？ ジョンが可哀そうぢやありませんか、そんなに云ふことを聞かない、とお前とジョンと取り代へ子にしますよと仰しやいました。

太郎は又しても口の中で  
太郎「ナニ、取り代へたつて構ふものか、犬になつた方が餘つ程、面白いや、ちつとも叱かられないで、そつだ一度犬になつて見ようか、と云ひながら庭のお池の方へ行つてしまひまし

た。そうこうして居る中に夕焼の西の空も暗くなり、父様もお歸りになつたので下女がランプをつけてテーブルを出して晩御飯の仕度をして居ます頓がて支度が出来たと見えて下女のお松の聲で「坊ちゃん、いらつしやい、お飯ですよ」と呼ぶ。すると向ふの玄關の方で

「ハイ」と返事しながら驅けて行く子供がおります。「オヤ、變だ 坊ちゃんは此處に居るのに」と見ると、是は又驚きました。其子供は自分の着て居る通りな飛白の着物と飛白の羽織を着て、自分と同じ足袋に、自分と同じ下駄を穿つて居ます。そして何うやら身体の大きさから、顔の様子迄も自分と同じ様に思はれました。そしてドン／＼お家へ上つて行きましたから、サア大變だと思つて一散に驅け出して行きましたが、其中に戸を締められたので入れません。家の中では皆が樂しそをに飯の最中で、先きの子供は何か面白さうにキヤツ／＼と笑つて居ります。太郎は入らうと思つ



て戸をガタ／＼動かしながら。

「母様、私です、ほんとの太郎です、開けて下さい」と云つた積りですが、自分の耳には何んにも聞えませんが、そして唯キャン／＼／＼／＼／＼／＼とばかり聞えます。

「オヤ私の聲は犬の様だ」と思ひながら着物を見ますと今迄の着物や羽織は何時の間にかジョンの白いむく／＼した毛皮に代つて居ます。之を見たら太郎は急に悲しくなつて。

「かわさまあー何うぞ勘恣して下さいあーい、もう是から云ふことよく聞きますから元の坊にしてください、ワアー」と

大聲で鳴きながら、戸を開けやうと思つてがた／＼ゆすぶりました。するとお父さんの聲で

「太郎！お前は又ジョンを小屋に入れてやらないね」と云ふのが聞えました。

「あ、忘れしました、けれど犬は寒くありませんよ」と云ひながら起つて来て戸を少し開けて呉

れましたから、太郎の犬は大急ぎで入らうと思ひますと、犬の太郎は足で以てぼんと蹴りました。そして

「畜生ッ！お前は家の中へ入るのぢやないッ！お庭の隅で寝て居るんだ」と云ひながら又一つぼんと蹴りやした。太郎の犬は痛いので

キャンキャンと泣きながら、仕方がありませんからお庭の隅の木の草のかき集めてある中へもぐり込んで寝て見ましたが、何にしる夜寒の風がひゆ／＼と吹くので兎ても寝て居られません。夫れに學校から歸つて来たさきりでお飯もまだ食べないのですから、お腹はペコ／＼です。是には流石の強情の太郎も閉口して

「是は堪らない、犬と云ふものは可哀をいなものだ、お腹が飢つてお飯が食べたくても云ふことが出来ず。痛くても寒くても誰に知らせることも出来ず。あーあ私はも是で人間になることが出来ないのか知らん」と

ぶる〜寒さに戦栗ながら、シク〜と泣いて居ました。そして口には云へませんから泣きながら心の中で、

「お父様、お母様、何うぞ勘忍して下さい、是からジョンを大事にして遣りますから、何うぞ勘忍して下さい」

云ひ續けて泣いて居りますと何處ともなく一人の白い髻の生へた白い着物を着たお爺さんが出て来て、

「何うだ太郎！お前の願ひ通り犬になれて嬉れしだらう」と云ひますから太郎は「お爺さん何うぞ御願ひですから元の人間にして下さい。も一決して犬になりたいと云ひませんから、何うぞ人間に歸して下さい」と願ひましたが、お爺さんは首を振つて、

「イヤ〜そでなからう、お前は平素犬が羨ましいから犬をひどい目に合はすのだらう、お前の様なものは一生犬で居るのがよいのだ」と云

はれますので太郎はわあ〜と泣き出しました。此態を見たお爺さんは可哀そ〜に思つて

「そんなに悲しいのなら、元の人間にしてやるが併し是から必と能く云ふことを聞く子供になるか何うだと云はれました。

「エ、必と〜も是からおとなしい、すなはな子になりますから、何うぞ元の通りにして下さい」と云ひました。

そこでお爺さんは太郎を抱へてお家の方へ来て戸の隙間からお室に入つて寝て居る犬の太郎と取り代へて、何處かへ行つてしまつたと思ふと次の部屋から母様の聲

「太郎や、夜が明けたから、もを、起きなさいよ」と云ふのが聞えしました。

「ハイ」と返事をして目を開いて部屋を見ますといつもの通り自分の部屋です、手足を見ると、もを犬の毛皮ではありません。太郎は嬉しくてくたまらないので勢よく飛び起きました。そして顔

を洗ふと直にジョンの小屋に行つて見ますとジョンは居ません。それからお庭の隅の木の葉の掃き溜めてある所へ行つて見ましたら、ジョンは寒さうにふるへながら木の葉の中にもぐつて居ました。そして太郎の來たのを見て尾を振りながら出て來ました、太郎は其頭を撫でながら

「ジョンやもを是から仲よくしよね」と云つて臺所へ連れて行つて朝の御飯を遣りました。それから太郎は朝御飯の後で夕べの事を母様や父様にお話して

「母様！それだから僕はもを是から二度と犬にならない様に能く云ふことを聞きます」と申上げますと、初めから黙つて聞いて居らした母様は何ともお仰らずに太郎を抱いて其熱心にはてつた太郎の頬に接吻なさいました。が此時涙に輝いた母様の眼から熱い一雫が太郎の頬にかゝりました。

お父様は之を聞いて

「太郎はい、夢を見たな」とお仰しやいました。が

太郎は何うしても夢と思ひませんでした。是から太郎は大層親切なとしてよく云ふことをさくよい子になりました

めでたし~~~~~

子供の一言

或る日子供の持つて來た繪本を見ながら「ツラ、」の話をして先生も子供の時分に「ツラ、」を喰べて母さんに、ノカられたことがあると言つた。スルト  
重雄「僕も喰べたことがある、炙いてお砂糖をつけてたべるとおいしいよ。」

三郎「重ちゃんおかしいな。ツラ、をやいたらとけてしまふたらうに。」

會費領收  
自四十年三月二十日  
至全 四月十日

金額	年月日	姓	名
三〇	四〇、一	吉川	ふみ
三〇	四〇、一	黒田	定治
三〇	四〇、一	伊號	弘一
三〇	四〇、一	竹島	茂郎
三〇	四〇、一	岡田	起作
三〇	四〇、一	岩佐	大道
二〇	四〇、三	田中	ふく
二〇	四〇、一	林	富美
一五〇	三九、四	遠藤	長江
一〇〇	三九、一〇	青山	春子
一二〇	三九、三	佐藤	扇野
八〇	三九、八	平安	新一郎
一二〇	四〇、二	木藤	むら
九〇	三九、七	加藤	成節
三〇	四〇、一	津原	ちか
一〇〇	三九、一〇	田村	ちか
三三	四〇、一	古川	みさほ
一〇〇	四〇、三	井上	玉井
一五〇	三九、六	大平	みち
九〇	三九、四	木村	寅枝
八〇	三九、五	荒井	つや
一〇〇	三九、一〇		

一二〇	四〇、四	問人	たや
五〇	三九、一	用瀬	嘉代
五〇	三九、一	山田	竹
三〇	三九、一	高木	萬壽
三〇	四〇、三	中村	こう
三〇	四〇、一	神田	順
一五〇	三八、一	林	千代
七〇	三八、六	富田	八千代
二〇〇	三八、八	吉岡	うた
一〇〇	三九、六	山川	いく
三〇	四〇、一	山口	西三郎
一二〇	四〇、四	山吹	美蒸
一五〇	四〇、一	伊吹	ぎん
一二〇	四〇、一	柳田	ふじ尾
二四〇	四〇、一	戸田	しげ
五〇	四〇、一	菊池	りう子
五〇	四〇、一	松岡	さち
三〇	四〇、一	町田	則文
三〇	四〇、一	金子	まき
六〇	四〇、一	山内	かす
六〇	三九、一〇	小野	議倫
六〇	四〇、一	武藤	ウメ
六〇	四〇、一	武野	ウメ
三〇	四〇、一	筒井	八重
三〇	三九、四	伊東	春子
二〇〇	四〇、四	伊東	冬子

(三十七年六月)  
(三十九年三月)  
全 (四十年一月)  
五月



女子高等師範學校教授東基吉先生編著 ○ 子ある家庭には必備の寶典

# 新案 育兒日誌

(舶來上等紙摺)  
洋裝美本 紙數凡そ四百五十頁  
定價四十錢(總クローズ) (全一冊)  
特製五十錢(春皮洋裝) (全一冊)  
郵稅各八錢

本書は東先生が從來我國に完全なる育兒日記のなきがために世の父母が兎角子供の日記を記し行果今回新に考案せられたるものにして、小兒の病氣、病室、營養、食物の主成分一體表等に至りては小兒科専門小原先生の指示と校閱とにより懇切丁寧に記載せられ、殊に育兒のことは一々實例を示され、たれば、**實驗的育兒法**として又從來希に見らるる良書といふ盡せりと**切文明的**なる**家庭**には是非とも備へざるべし、**出産の祝品**書として最も**適**

學習院女學部長 下田歌子女史新著

# 賜天覽

## 女子の修養

廿世紀女子教育の生粹 新家庭經營整理の寶鑑

洋裝全一冊  
頗ル美本  
正價七拾錢  
金七拾錢  
郵稅八錢

フルーベル會 編纂 (本月中旬製本出來の積り)

# 談話材料

全 壹冊  
 定價 參拾錢  
 郵 稅 貳錢  
 近 刊

右は専ら女子高等師範學校附屬幼稚園で使用して居る童話を纂輯し之に斬新な新作童話を追加したものです。幼兒教育に熱心な母親方や幼稚園の先生方は此書に因りて幼兒に話す可き談話は、何んな種類のもの、を何んな風に話すのかと云ふことが判りませう。

フルーベル會 編纂 (本月下旬製本出來の積り)

# 幼稚園遊戯

全 壹冊  
 定價 參拾錢  
 郵 稅 貳錢  
 近 刊

右は専ら女子高等師範學校附屬幼稚園で現在實行して居る所の遊戯を纂輯したものであります。世に遊戯書は澤山ありますが幼稚園特別のものはありません。本書は實に此類の書物の魁です。地方の幼稚園の方々には是非御研究を願ひます。前兩書共本會々員には特に一割引の實費を以て差上ります。(前號二割とせるは誤り)

發行所 フルーベル會

東京高等師範學校教授  
東京帝國大學助教授

文學士

保科孝一先生著

# 言語學講話

洋裝菊判總クローヌ

全一冊正價八十五錢

郵税金八錢

## ▲大修正第三版發賣

(講求者は修正の版に注意せよ)

國語教育の發達を促し國語問題の解決を速ならしめんには言語學の普及を以て要縮とせずきや論を俟たず保科先生特に茲に見るところなり本書を著はして言語學の一斑を平易に且つ懇切に説明せらる中等教育に従事せらるる諸君は勿論言語に關する原理を學んで期の道に貢獻するところならんとせらるる諸君は教科書又參考書として缺くべからざる良書なり殊に今や三たび版を改むるに當り丁寧な増補修正を加へられたれば一層得る處たるべし

受驗の秘奥を闡明せしは本書なり

最近

の好

著

學海隱士著

成功  
秘訣

# 受驗術

洋裝ハイカラ形美本

全一冊正價金三十錢

郵税金四錢

讀め……學生諸君學海に身を立て成功を期せんとする士は

讀め……教員檢定授驗せんとする人

讀め……醫術開業受驗せんとする人は

發行所 東京神田區猿樂町二弘道館



大好評七版發行

廣島高等師範學校教授 吉田信太先生作曲  
 廣島高等師範學校教授 原藤藏先生作技

國定 讀本 唱歌遊戯教授書

洋裝菊版  
 色クローヌ  
 無類の美本

尋常科の部全一冊正價金八十錢郵稅拾錢 高等科の部全一冊正價金八拾錢郵稅拾錢

▲讀め……唱歌遊戯教授に新發明はさん教育家は

▲讀め……訓育上體育上に効果顯はさん教育家は

▲讀め……戰後に於る健勇の國民養成する教育家は

男爵 金子堅太郎先生著 教育家は速に本書を見よ

日本教育之將來

菊判形全一冊  
 正價 參拾錢  
 郵稅 四錢

『教育新聞の批評』 (四月三日頁三十三號)

本書は金子男爵の米國土産である。男爵は久しく米國にあつて、幾回も彼地の集會に臨まれました。彼地の紳士紳商と往來してせられたのであるが、歸來先づ我が教育社會に向つて一大土産を寄せられた。本書は即ちそれである。苟も我が國將來の教育を念ふの士は是非本書を一讀せられたいものである。(定價金貳拾錢郵稅四錢東京市弘道館發行)

# 文 學 士 北 澤 定 吉 先 生 著

# 哲 學 史 細 史

洋 製 存 皮 菊 全 判 一 冊

正 價 金 九 拾 錢 郵 稅 金 拾 錢

今 本 書 の 目 次 概 略 を 示 さ ん

哲 學 史 全 體 の 一 大 體 系 を 成 す は 只 本 書 み か の

第二章 序論	第一節 哲學の概論	哲學概論の變遷以下第七項目に分類す
第二章 希臘哲學	第二節 哲學史の概念	哲學史の概念の變遷以下四項目に
第三章 自然哲學時代	第三節 自然哲學時代	希臘哲學の萌芽以下五項目に
第四章 人文論時代	第四節 人文論時代	自然哲學の成果外三項目に
第五章 全盛時代	第五節 全盛時代	哲學體系の組織外四項目に
第六章 宗教時代	第六節 倫理時代	アリストテレス以後の希臘哲學外四項目に
第七章 中世哲學	第七節 宗教時代	倫理哲學の成果以下五分類
第八章 原始サリスト	第八節 原始サリスト	希臘哲學と中世哲學
第九章 教父哲學	第九節 教父哲學	中世哲學の三要素
第十章 スコラ哲學	第十節 スコラ哲學	猶太教キリスト教、便徒の教
第十一章 過渡時代の哲學	第十一節 過渡時代の哲學	教父哲學外二項目に
第十二章 カント以前の近世哲學	第十二節 カント以前の近世哲學	普遍の問題外四項目に
第十三節 英國の經驗派	第十三節 英國の經驗派	過渡時代外九項目に
第十四節 カント以後の近世哲學	第十四節 カント以後の近世哲學	ベールコン外十一項目に
第十五節 カント以後の獨乙哲學	第十五節 カント以後の獨乙哲學	アカルト外七項目に
第十六節 ヘーゲル死後の獨乙哲學	第十六節 ヘーゲル死後の獨乙哲學	批判哲學外六項目に
第十七節 十九世紀の英佛哲學	第十七節 十九世紀の英佛哲學	カントの反對者外十四項目に
第十八節 哲學現今の進歩	第十八節 哲學現今の進歩	ヘーゲル學派外十項目に
第十九節 認識の問題	第十九節 認識の問題	感覺論の反動外六項目に
第二十節 實在の問題	第二十節 實在の問題	本章の内容
		認識の形式外二項目に
		根本原理の教外五項目に
		美學、人生の理想

附 録 に は 名 稱 索 引

學 語 索 引

發 行 所 京 京 神 田 區 猿 樂 町 貳 弘 道 館

# 教育界の好評の各種新刊書

前東京高等師範學校教授 三土忠造先生講述

**實踐倫理講義**

菊一冊形 正價金二十錢 郵稅四錢

前東京女子高等師範學校教授 齋藤鹿三郎先生講述

**教育學講義**

菊一冊形 正價金三十錢 郵稅四錢

東京高等師範學校講師 關本幸太郎先生講述

**理科講義**

菊一冊形 正價金三十錢 郵稅四錢

農科大學教授農學博士 橫井時敬先生著

**農業振興策**

菊一冊形 正價金卅八錢 郵稅四錢

文部省視學官農學士 針塚長太郎先生 農科大學教員養成所講師 山崎 德吉先生 共著

**養蠶教授指針**

菊一冊形 正價金貳十五錢 郵稅四錢

東京高等師範學校教授 東基吉先生編

**新案 育兒日誌**

四一冊形 並上製金五十錢 正價金四十五錢

學習院女學部長 下田歌子女史新著

**女子之修養**

菊一冊形 正價金七十錢 郵稅八錢

瀨川博士校 織田勝馬 白土 千秋 先生共著

**小兒劣等生救濟の原理に方法**

菊一冊形 正價金六十錢 郵稅八錢

發兌 東京 神樂 田貳 弘道館 ● 發賣 東京 橋本 隆文館

# 心理學の冠王

新刊 (文) 章 (平) 易

東京帝國大學  
文科大學教授

文學博士 元良勇次郎先生新著 (五月一日發賣)

## 心理學綱要

心理學上に於ける博士の位置は世既に定評あり。爰に喋々を要せず、本書は、博士が、彼の宏大深甚の學殖を提げて、昨年更に歐米諸洲を漫遊し齎らされたる泰西名家の學說と、博士が多年造詣せる新研究とを悉く網羅されたる大著なり、行文頗る平易にして、簡明、世の心理學に通曉せんと欲する士及び教育文學宗教界に立つの士は必ず本書無かる可からざる也。

洋裝菊判全一冊  
紙數凡三百餘頁  
定價凡金一圓  
郵稅金十錢

發行所 東京神田猿樂町貳番地 弘道館

明治四十年五月五日發行

井上哲次郎先生 文學博士 井上元良先生 文學博士  
 井上長勇先生 文學博士 井上西郷先生 文學博士  
 井上田歌先生 文學博士 井上先子先生 文學博士  
 井上圓了先生 文學博士 井上先子先生 文學博士

# 山西 山 西 治 愨 生 編

中村不折 伯美 庭園 樂器 三色版 繪圖 插畫 書紙 上等 摺紙 等

正價一圓三十錢 特價九拾錢 郵稅五十錢

**家庭の代末の寶典**

家庭問題は今に残されたる社會問題として又戰捷後必  
 然に社會の要求する時代急需の聲に應ぜんとて世に出  
 づる家庭向の著書敢て尠きにあらざらざる即ち編者此に周到  
 ひべし一時の苦心抱負を以て新しき福音に接するもの  
 の用意はこれに依りて光明に浴して本書を編纂せられたれば  
 家庭は此れに依りて幸に世の流行的一夜作の駄編と同一  
 視する勿れ本書の内容は



## 日本家庭辭書

家庭組織	徳宗	教育	經濟	裁縫	園藝	茶	道
結婚制度	交際	衛生	洗滌	洗濯	畜養	音樂	工藝
法律	式家	器具	理事	汚點	花遊	戲交	通品

等て最も家庭に必要なる千餘項を選  
 就て配列し説明するに關して細大漏  
 順に懇切荷くも事家庭に關して細大漏  
 庭の顧問たるを期せり即ち本書を家庭必備の寶典として一  
 め又教育に熱心なる各學校教育家及び學生諸君の備品として推  
 幸に此の好機を逸せず購讀の榮を賜はらんことを

**注意** 購讀者有之購求者は編者西山治發行所弘道館に注意

發行兼 辻本卯藏 印刷者 日下主計

發行所 女子高等師範學校内

所賣發 店書地各 | 局本話電 館道弘 猿田神京東 所行發 地番二町樂